クリプト便

メール連携オプション 管理者マニュアル

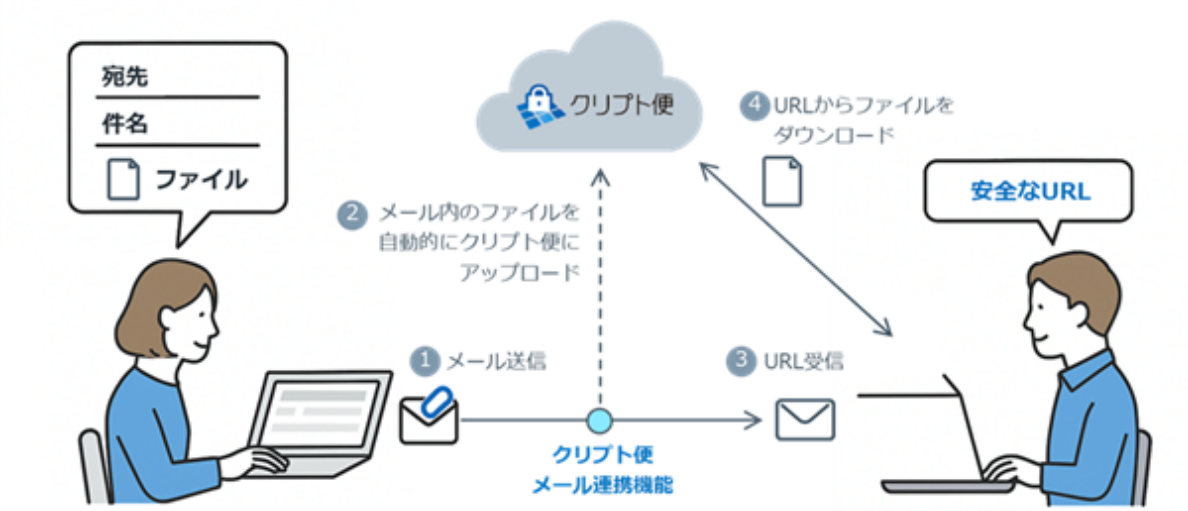
2026-07-27

NRI SECURE

1. 目次

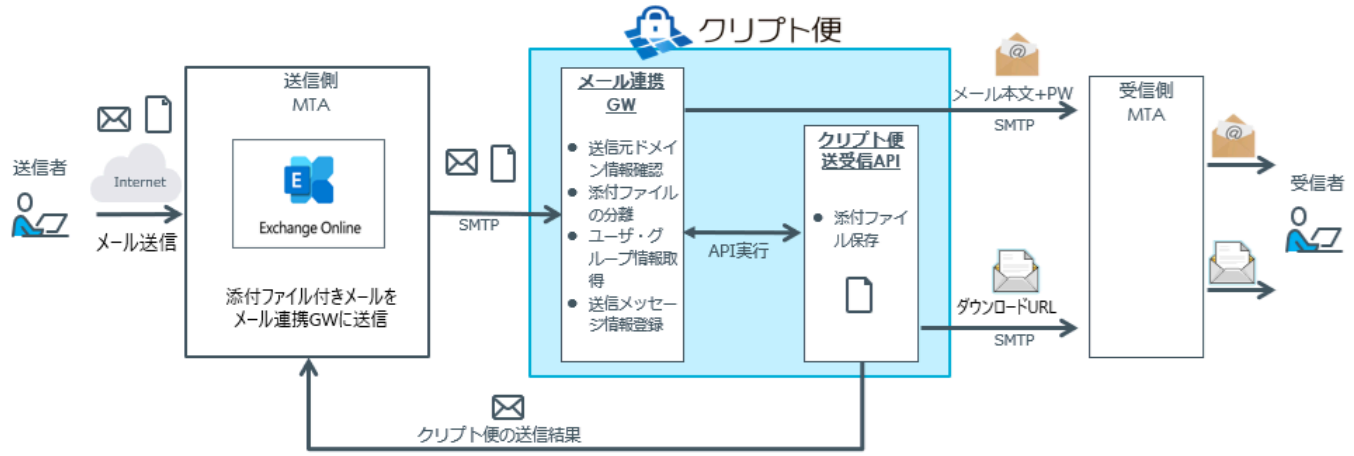
2. サービス概要

クリプト便メール連携オプション（以下、「本オプション」）を利用することで、送信者は普段通りメールにファイルを添付して送信するだけで、添付ファイルは自動的に分離され、クリプト便経由で相手に安全に送付することができます。
受信者は、添付ファイルなしのメールを受信し、メッセージを確認すると同時に、通知されたURLにアクセスしてクリプト便のサイトからダウンロードする形で添付ファイルを受領します。
このように、ユーザは特別な操作を意識することなく、従来のメール送信の流れを変えずに、セキュリティ強化を実現できます（下図を参照）。



また、本オプションは、Microsoft Exchange Online、Google Workspaceなどのメール環境と連携が可能です。
ユーザが送信した添付ファイル付きメールは、メール連携ゲートウェイ（以下「メール連携GW」）で添付ファイルをメール本文から分離し、クリプト便の送受信APIを用いてクリプト便メッセージとして送信することで、セキュアなファイル送信を実現しています。

<Exchange Onlineを利用した場合のシステム構成例>



3. 動作検証環境

3.1. クラウドサービス・ソフトウェア

本オプションは、以下のクラウドサービス・ソフトウェアで動作検証を行っています（2026年6月時点）。

- Microsoft 365（Exchange Online）
- Google Workspace

4. クリプト便メール連携オプション導入手順

本章では、本オプションの利用に必要な初期設定や導入手続きを記載しています。
初めてご利用になる方は、必ず本章をご参照のうえ、導入作業の実施をお願いします。
なお、以降の説明はすべて、クリプト便のセクション管理者としての初期設定が完了していることが前提となっております。

本オプションを利用開始するため、以下の流れで設定を行います。

1. クリプト便の設定
2. 利用開始設定依頼
3. DNSレコード設定
4. クラウドサービス・ソフトウェアの設定
5. 動作確認
6. 本番利用開始のための設定
7. 導入作業完了

4.1. クリプト便の設定

4.1.1. メール連携用デフォルトグループの設定

クリプト便のセクション管理者画面にログインし、本オプション用に以下の条件を満たすオープングループを作成します。
以後、当該グループを「メール連携用デフォルトグループ」として扱います。

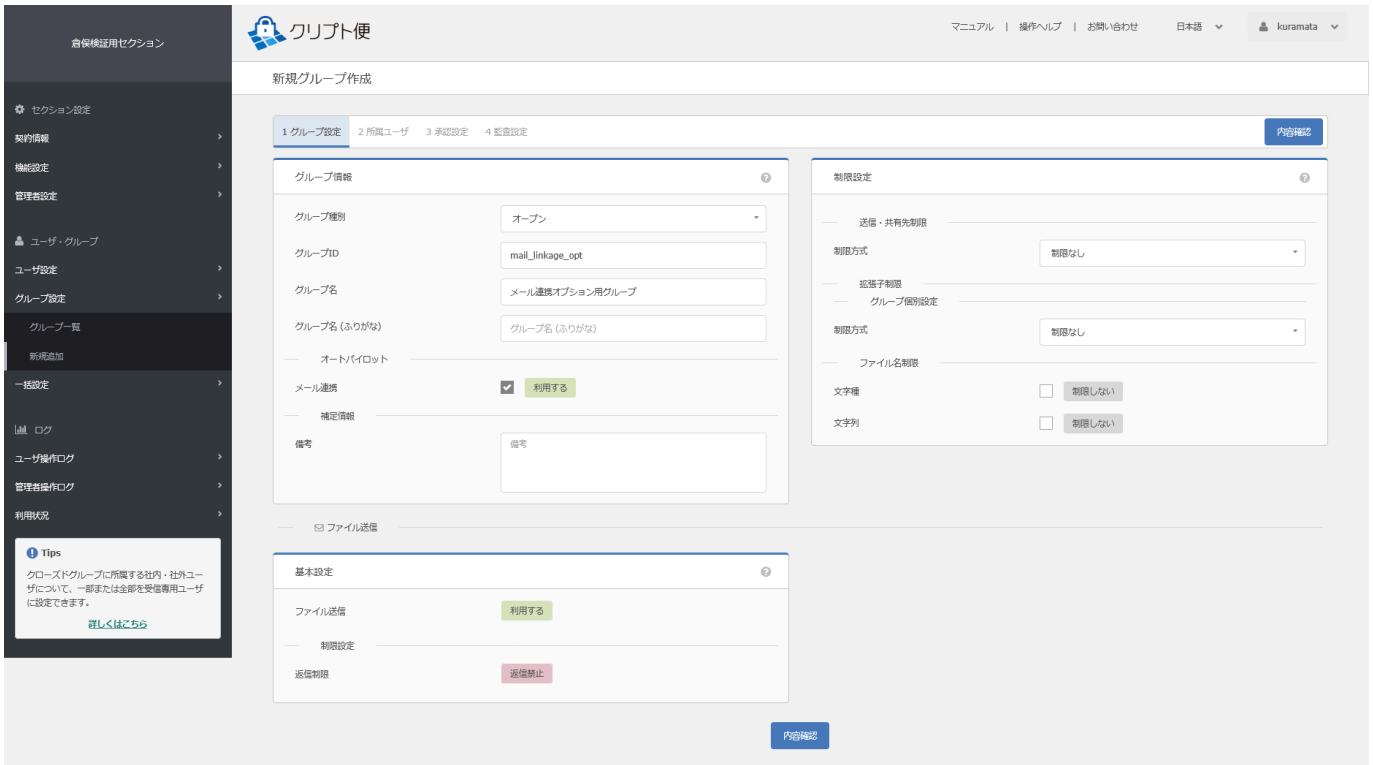
- グループ種別： オープン
- メール連携： 利用する

本グループで承認機能を有効化し、承認者を設定することは可能ですが、後述のメール連携用デフォルトユーザによって送信されたメッセージをすべて承認することになるため、ご注意ください。

また、上記設定の内容に誤りがないよう、十分にご確認ください。利用開始設定後の変更はできません。

やむを得ず設定の変更が必要となる場合は、必ず事前にクリプト便ヘルプデスクまでご連絡ください。
事前にご連絡なく設定を変更された場合、変更直後よりメール連携GWを経由したメール送信が行えなくなります。

＜設定例＞



4.1.2. メール連携用デフォルトユーザの作成

本オプション用に、以下の条件を満たすユーザを作成し、先ほど作成したメール連携用デフォルトグループに所属させます。 以後、当該ユーザを「メール連携用デフォルトユーザ」として扱います。ユーザの用途に関しては、ユーザIDの登録有無によるメール連携処理の変化をご確認ください。

- ユーザ種別：　社内ユーザ
- ユーザID：　ランダムIDを利用 or メールアドレスを利用
- 接続元IPアドレス制限（共通IPアドレス制限 および 個別IPアドレス制限）：　3.44.128.44-3.44.128.47
  ※3.44.128.44-3.44.128.47 は、メール連携GWがクリプト便APIにアクセスする際のIPアドレスです。
  　このIPからのアクセスが可能となるように設定する必要があります。
  　その他の接続元IPアドレス制限については、お客様のご要件に合わせて適宜設定してください。
  　【ご参考】状況に合わせてアクセス制限を設定したい
- ログイン方法：　クリプト便IDでのログインも併用
  ※認証連携オプションをご利用の場合のみ設定
- ログインドメイン：　ヒアリングシートに記載したログインドメインを選択
  ※専用ドメインオプションをご利用の場合のみ設定
- ログインロック：　ログイン可能
- パスワード有効期限：　有効期限なし（無期限）
  ※無期限を選択できない状態の場合は、機能設定 > パスワードポリシー > パスワード有効期間 から設定変更をお願いします。
- ワンタイムパスワード：　利用しない
- 所属グループ：　先ほど作成した「メール連携用デフォルトグループ」を選択

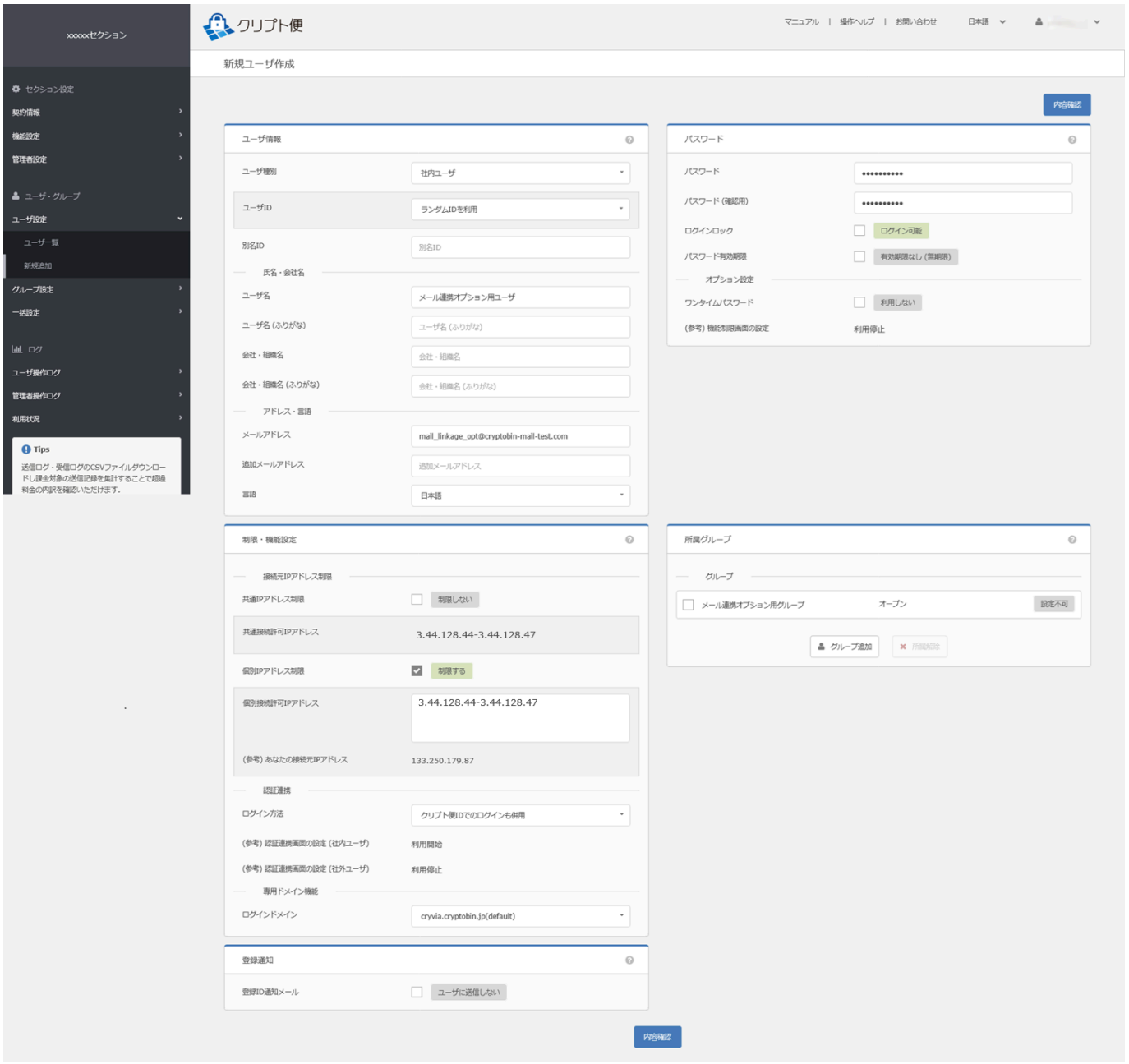
上記設定の内容に誤りがないよう、十分にご確認ください。
利用開始設定後の変更（デフォルトユーザのグループ所属変更や、ユーザの変更を含む）はできません。

やむを得ず設定の変更が必要となる場合は、必ず事前にクリプト便ヘルプデスクまでご連絡ください。
事前にご連絡なく設定を変更された場合、変更直後よりメール連携GWを経由したメール送信が行えなくなります。

特に、以下のような設定不備によりメール送信ができなくなるケースが多く発生しておりますので、ご注意ください。

- **接続元IPアドレス制限**
  共通IPアドレス制限または個別IPアドレス制限のいずれか一方で、先述のIPアドレスが許可されていない。
- **ログイン方法**
  「認証連携経由のみ」のオプションが選択されている。
- **ログインドメイン**
  ヒアリングシートに記載のないドメインが設定されている。
- **パスワード有効期限**
  「無期限」に設定されていないため、利用開始後にデフォルトユーザのパスワードが期限切れとなり、メール送信が突然遮断される。

＜設定例＞

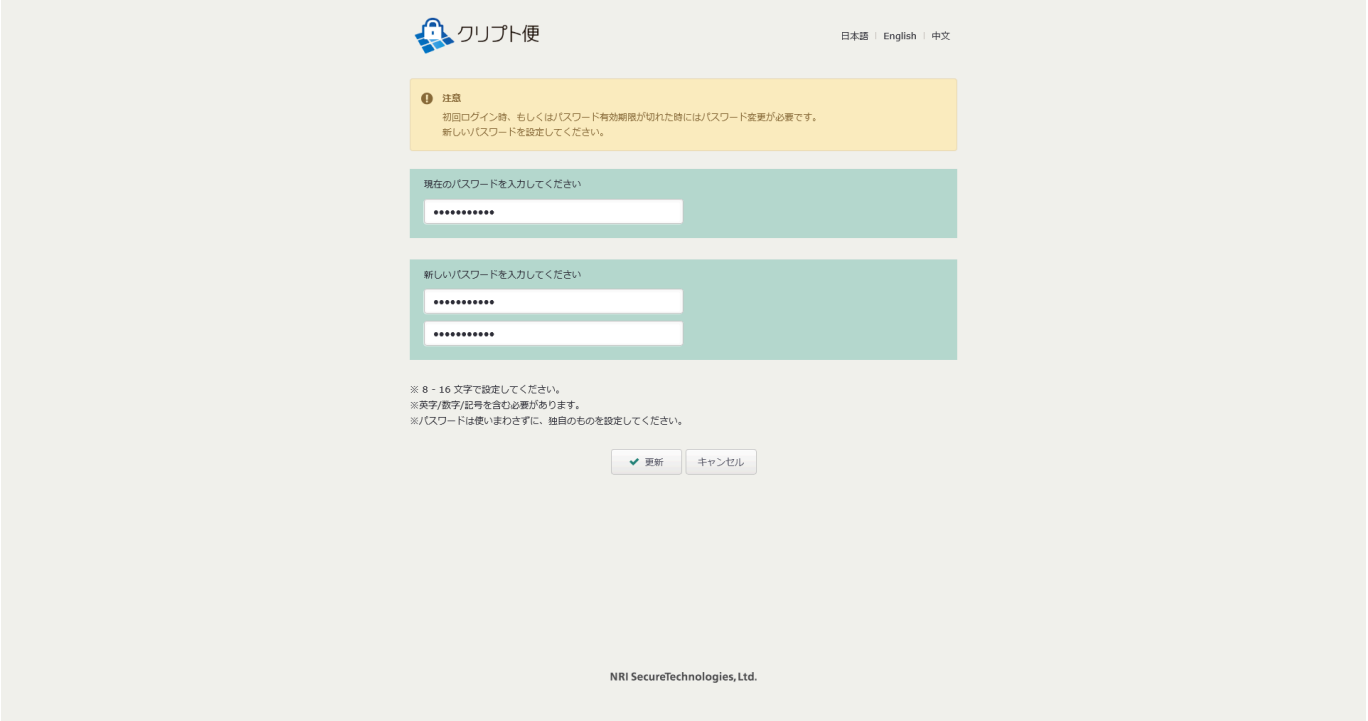


4.1.3. パスワード再設定

先ほど作成したユーザで初回ログインし、新しいパスワードを設定します。

利用開始設定後の変更はできません。

やむを得ず設定の変更が必要となる場合は、必ず事前にクリプト便ヘルプデスクまでご連絡ください。
事前にご連絡なく設定を変更された場合、変更直後よりメール連携GWを経由したメール送信が行えなくなります。



4.1.4. メール連携用デフォルトグループの作成

必要に応じて、メール連携用デフォルトグループ以外のグループの作成や、所属ユーザの設定、承認設定、監査設定の実施をお願いします。
参考：セクション管理者マニュアル>ユーザ・グループ>グループ設定

クリプト便におけるユーザIDの登録状況やグループへの所属状況に応じて、処理パターンが変化します。
詳細は、ユーザIDの登録有無によるメール連携処理の変化をご確認ください。
なお、メール連携用グループに所属するユーザの「ログインドメイン」の設定は、ヒアリングシートで事前申告したドメインを選択する必要があります。

4.2. 利用開始設定

4.2.1. 利用開始設定依頼

本オプションのお申込み時にお渡しした「ヒアリングシート」の「お客様記入欄」に以下の情報を記載し、クリプト便等の安全な方法にて、クリプト便ヘルプデスク宛にお送りください。
お客様からいただいた内容をもとに、弊社にて利用開始設定を行います。

- メール連携用デフォルトグループのグループID　※メール連携用デフォルトグループの設定で設定したもの
- メール連携用デフォルトユーザのユーザID　※メール連携用デフォルトユーザの作成で設定したもの
- メール連携用デフォルトユーザのパスワード　※パスワード再設定で設定したもの

4.2.2. 利用開始設定完了

利用開始設定が完了次第、クリプト便ヘルプデスクからお客様にご連絡します。

> この際、「ヒアリングシート」の「NRIセキュア記入欄」を記入した状態でご返却しますので、連絡が届き次第、次の「DNSレコード設定」の実施をお願いします。

4.3. DNSレコード設定

メールのなりすまし防止と信頼性向上のため、送信ドメイン認証（SPF、DKIM）を行います。

4.3.1. DNSレコードの登録作業

「ヒアリングシート」の「NRIセキュア記入欄」を参照のうえ、お客様が管理するドメインの権威DNSサーバへ登録をお願いします。

＜設定例＞

設定箇所	設定例
MXレコード	<お客様指定のドメイン>. IN MX 10 feedback-smtp.ap-northeast-1.amazonses.com.
TXTレコード	<お客様指定のドメイン>. IN TXT "v=spf1 include:amazonses.com ~all"
DKIMレコード①	xxxxx._domainkey.<お客様指定のドメイン>. IN CNAME aaaaa.dkim.amazonses.com.
DKIMレコード②	yyyyy._domainkey.<お客様指定のドメイン>. IN CNAME aaaaa.dkim.amazonses.com.
DKIMレコード③	zzzzz._domainkey.<お客様指定のドメイン>. IN CNAME aaaaa.dkim.amazonses.com.

「DMARC」のご利用については任意となりますので、必要に応じて差出人メールアドレス（ヘッダFROM）のドメインに対応する権威DNSサーバに設定をお願いします。
その際には、SPFアライメントモードを **Relaxed** に設定するか、あるいは無指定とすることをお勧めします。

4.3.2. DNSレコードの登録完了のご連絡

DNS設定が完了次第、クリプト便ヘルプデスクにご連絡ください。
弊社にてDNS設定の確認およびオプション利用開始に伴う作業を行います。

> 弊社作業が完了次第、クリプト便ヘルプデスクからお客様に「クラウドサービス・ソフトウェアの設定」の実施依頼を行います。
> なお、弊社作業に関してはDNS設定の反映待ちの時間も含まれるため、5営業日程度かかる場合がございます。

4.4. クラウドサービス・ソフトウェアの設定

本手順は「DNSレコード設定」がすべて完了次第、実施をお願いします。

クリプト便メール連携オプションを利用する際の設定例をご紹介します。
お客様の環境により設定方法が異なる場合がありますが、以下の設定例を参考に設定作業を実施してください。

4.4.1. Exchange Onlineを利用している場合の設定例

Exchange Onlineをご利用の場合、以下の設定を実施することで本オプションの利用が可能となります。

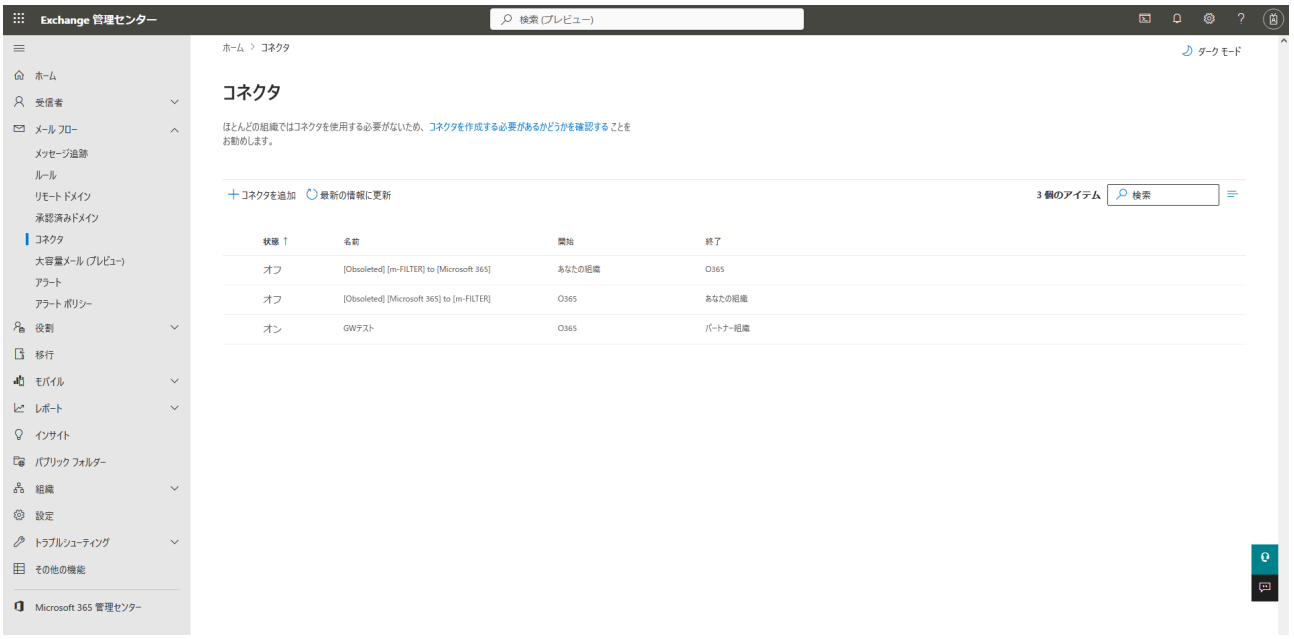
- コネクタの作成
  メール連携GWへ接続するためのコネクタを作成します。
- トランスポートルールの作成（メール連携の動作確認用の設定）
  メール連携GWへ添付ファイル付きメールを連携するためのトランスポートルールを設定します。
- 添付ファイル条件の設定
  添付ファイルがあるメールのみを連携対象とするルールを設定します。
- トランスポートルールの作成（エラー通知メール受信用ルール）
  メール連携GWから送信されるエラー通知が迷惑メール判定されることを防ぐためのトランスポートルールを設定・有効化します。
- 宛先数の制限（任意）
  送信メール1通あたりの宛先数の制限を行います。
- リッチテキスト形式の利用制限（任意）
  リッチテキスト形式のメール送信について利用制限を行います。

後述の手順はあくまで設定例となりますので、お客様のExchange Onlineのご利用状況により設定内容が異なる場合がございます。
また、本オプションの動作に影響が出ない範囲で任意の設定を実施していただくことも可能です。

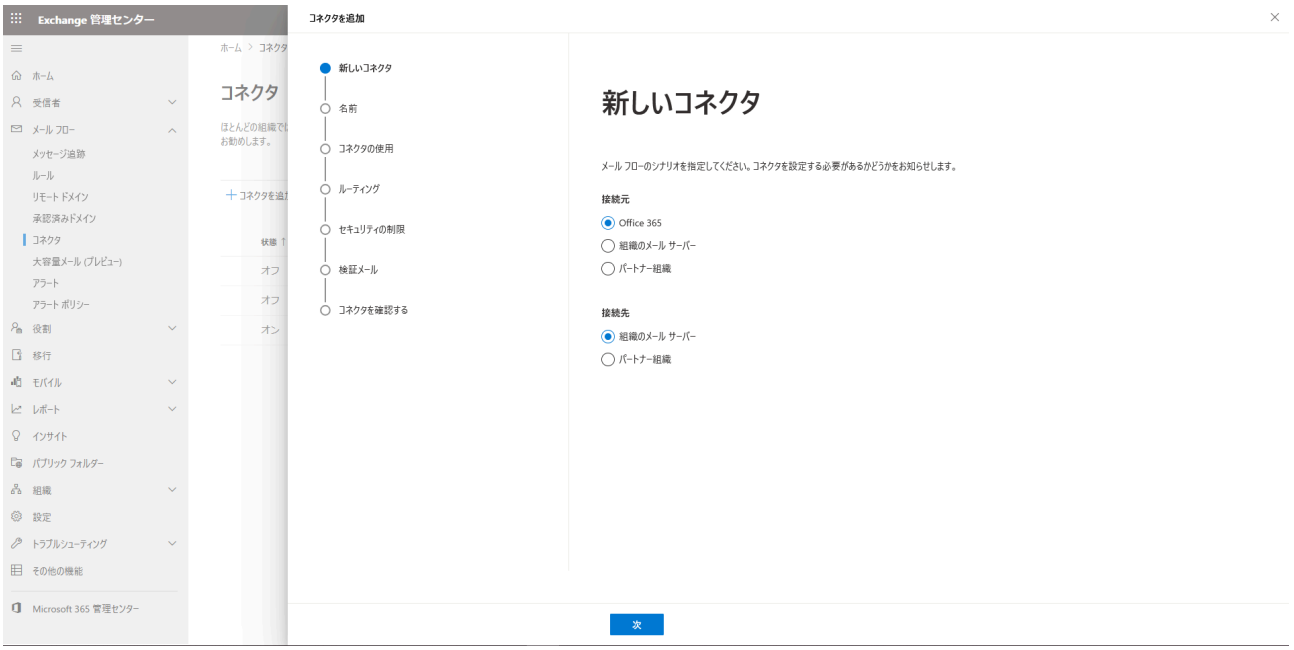
4.4.1.1. コネクタの作成

メール連携GWへ接続するためのコネクタを作成します。

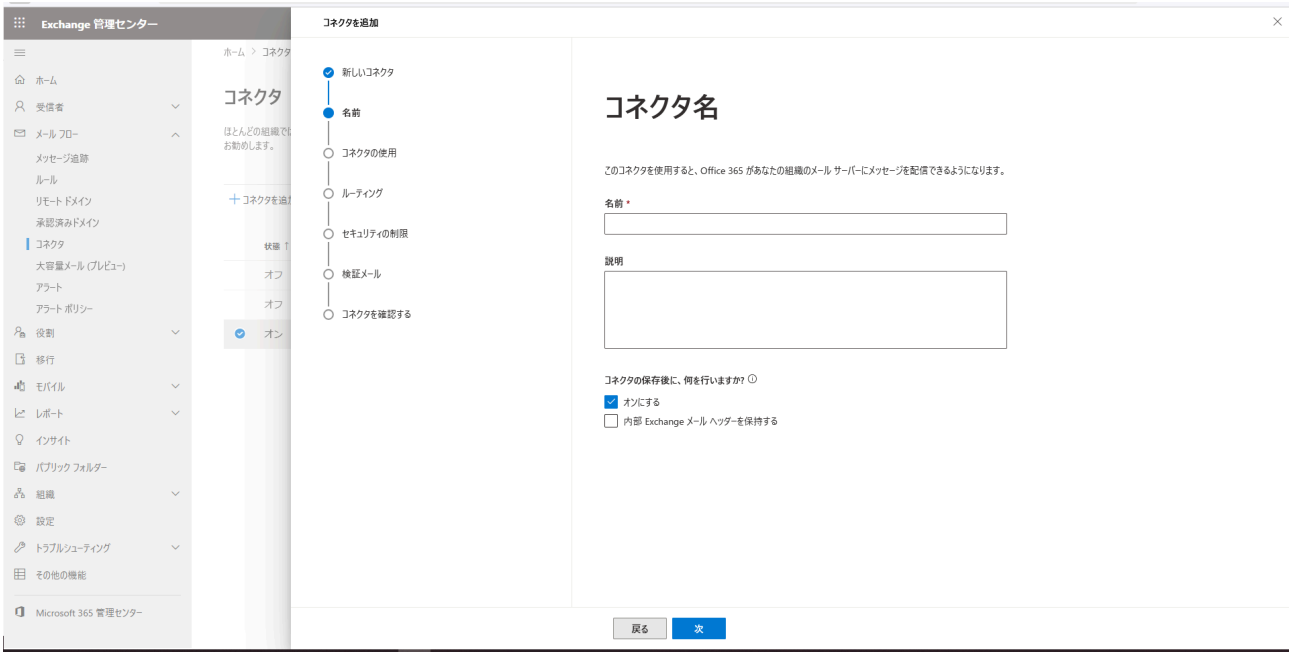
1. 下図のようにExchange管理センターのサイドバーから、メールフロー > コネクタに遷移し、「コネクタを追加」ボタンを押します。



2. 「新しいコネクタ」画面で、下図のように接続元は「Microsoft 365（または Office 365）」、接続先は「組織のメールサーバ」を選択し、「次」ボタンを押します。

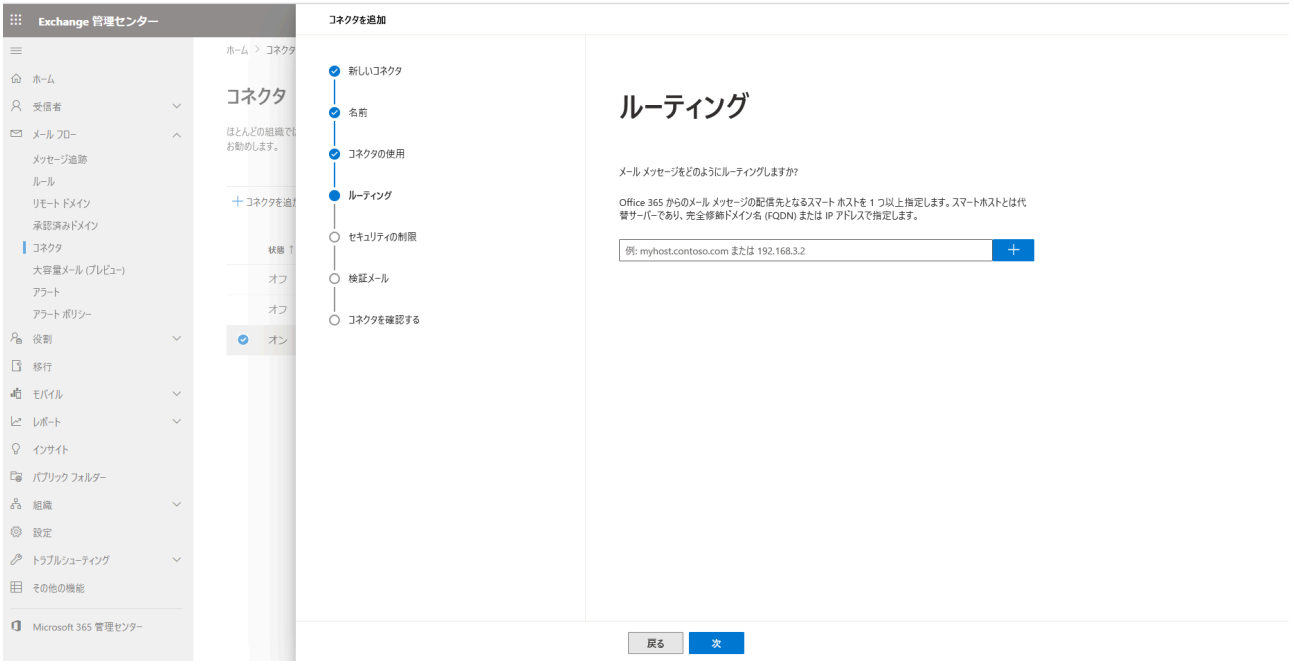


3. 「コネクタ名」画面で、名前に任意の名前を入力し、下図のように「オンにする」を選択し、「次」ボタンを押します。

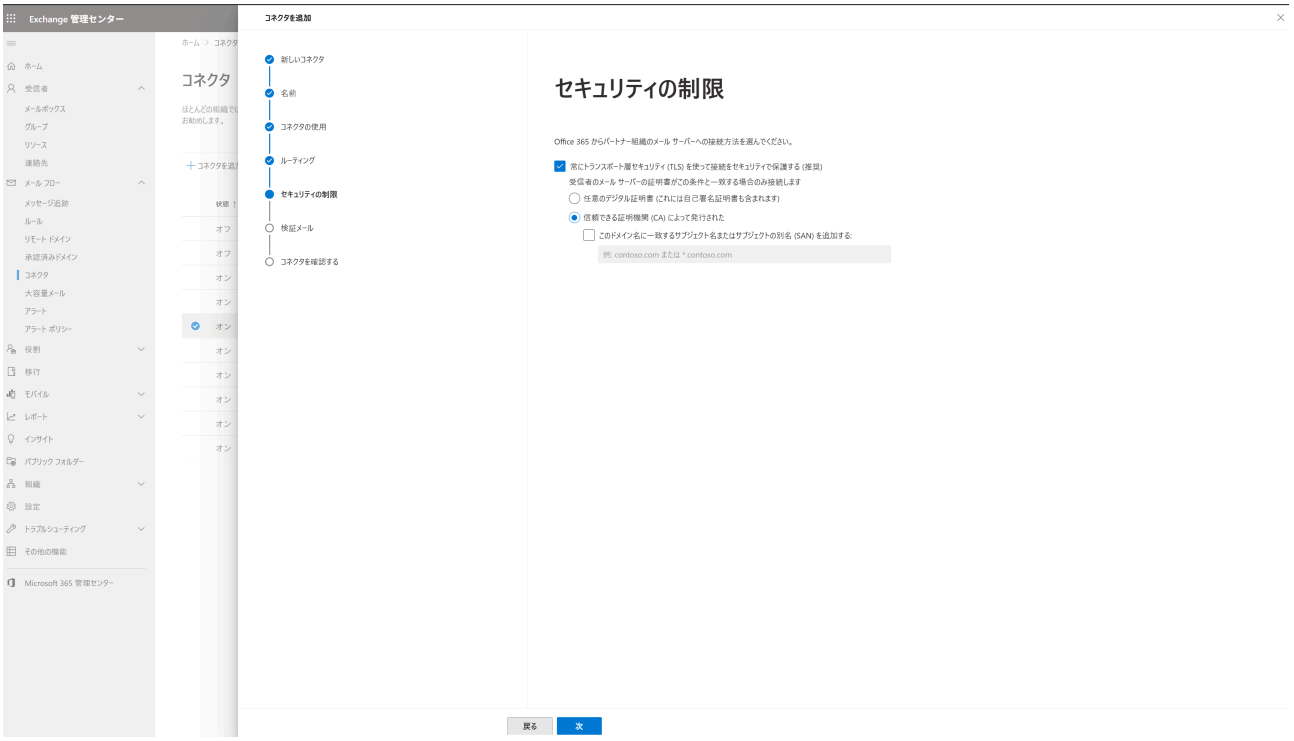


4. 「コネクタの使用」画面で、下図のように「メッセージをこのコネクタにリダイレクトするトランスポート ルールが設定されている場合のみ」を選択し、「次」ボタンを押します。

5. 「ルーティング」画面で、「prod.cryptobin-gw.com」を入力し、「+」ボタンを押し、「次」ボタンを押します。



6. 「セキュリティの制限」画面で、下図のように「常にトランスポート層セキュリティ (TLS) を使って接続をセキュリティで保護する(推奨)」と、「信頼できる証明機関（CA）によって発行された」を選択し、「次」ボタンを押します。



7. 「検証メール」画面で、「test@cryptobin-gw.com」を入力し、「検証」ボタンを押します。下図のように検証が成功したら、「次」ボタンを押します。

8. 下図のように確認画面が表示されましたら、「コネクタを作成」ボタンを押します。これでコネクタの作成は完了です。

4.4.1.2. トランスポートルールの作成（メール連携の動作確認用の設定）

メール連携GWへ添付ファイル付きメールを連携するためのトランスポートルールを設定します。

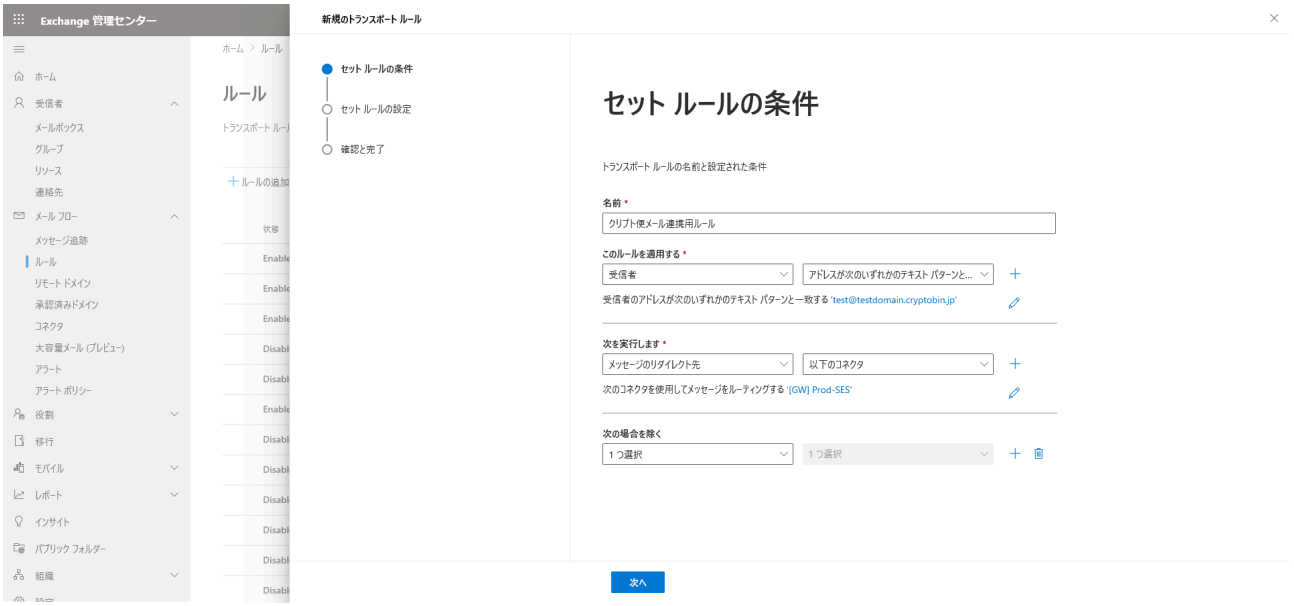
1. 下図のようにExchange管理センターのサイドバーから、メールフロー > ルールに遷移し、ルールの追加 > 新しいルールの作成を選択します。

2. 「セットルールの条件」画面で、下図のように各項目を入力し、「次へ」ボタンを押します。トランスポートルールの名前は、任意の名前を入力してください。

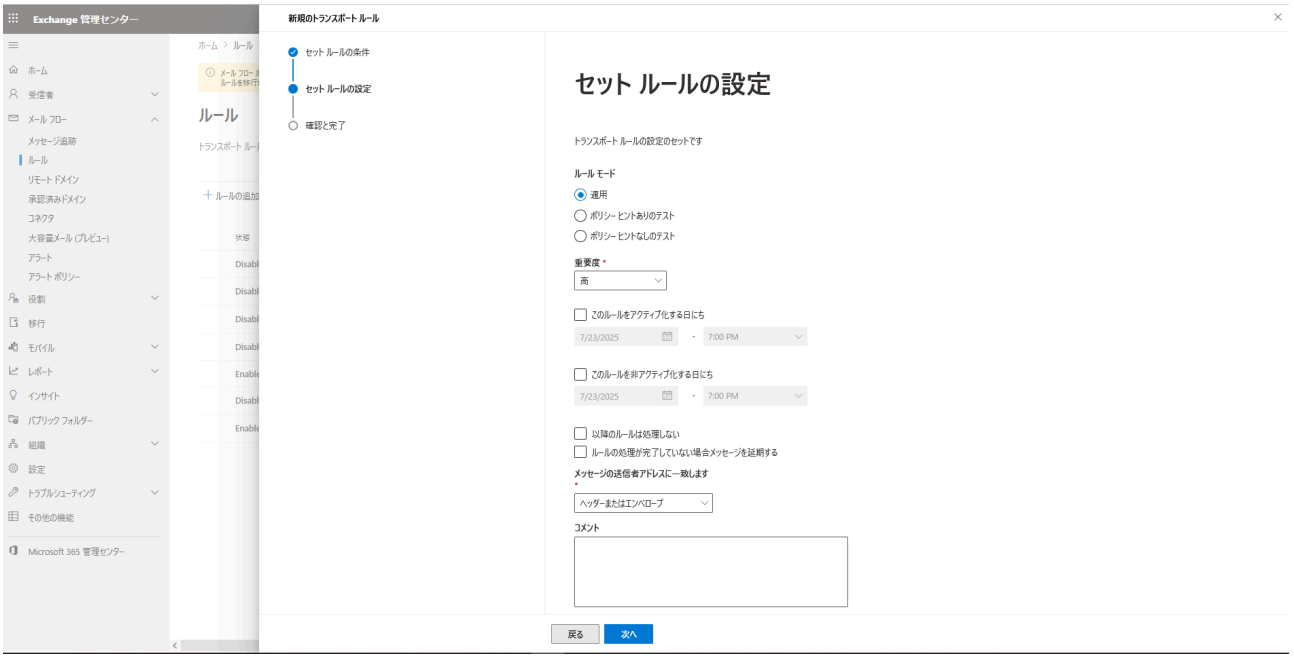
- このルールを適用する：　「受信者」、「アドレスが次のいずれかのテキストパターンと一致する」を選択し、任意のメールアドレス（※）を入力します。
※動作確認に利用する宛先メールアドレスを入力します。なお、本設定はあくまで一例ですので、お客様のご判断で任意の条件に変更いただくことも可能です。

- このルールを適用する（追加条件）：　「添付ファイル」、「サイズが次の値以上」を選択し、0バイトを設定します。
※添付ファイルがないメールを除外するための設定です。

- 次を実行します：　「メッセージのリダイレクト先」、「以下のコネクタ」から先ほど作成したコネクタを選択

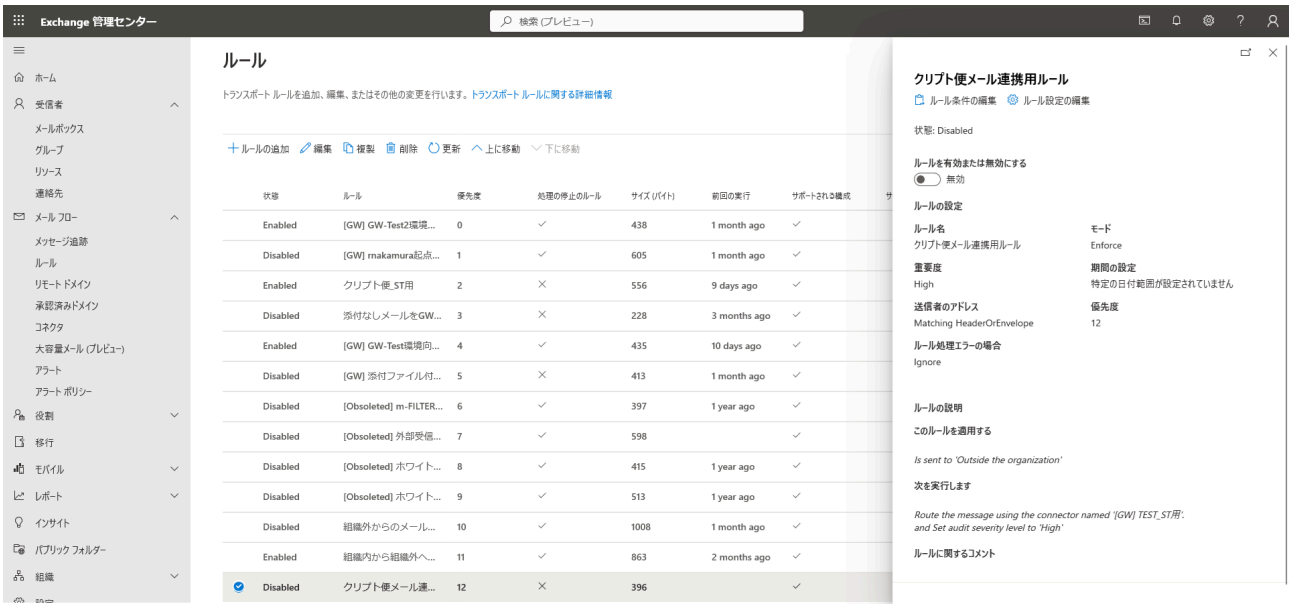


1. 「セットルールの設定」画面で、下図のように各種値を入力し、「次へ」ボタンを押します。
このとき、「ルールモード」は「適用」、「重要度」は「高」、「メッセージの送信者アドレスに一致します」は「ヘッダーまたはエンベロープ」を選択します。

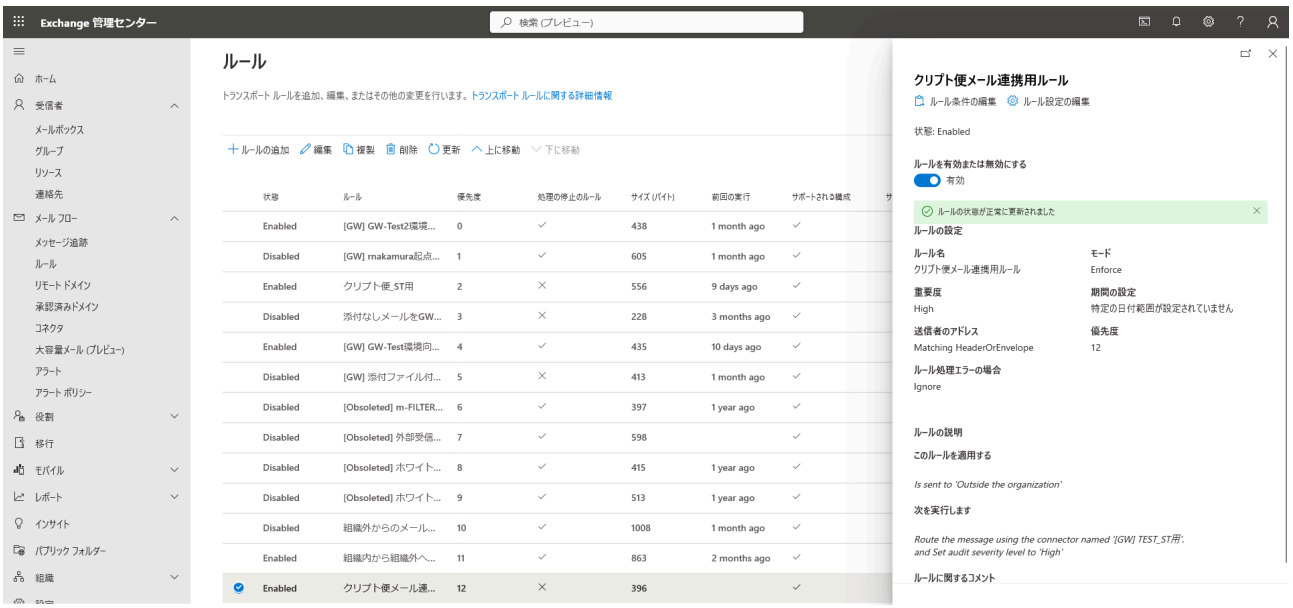


2. 下図のように確認画面が表示されたら、「完了」ボタンを押します。これでルールの作成は完了です。

3. 作成したルールを確認し、状態がDisabledになっていることを確認します。



4. 作成したルールを選択し、有効にします。下図のように状態がEnabledになっていればルールは有効になっています。

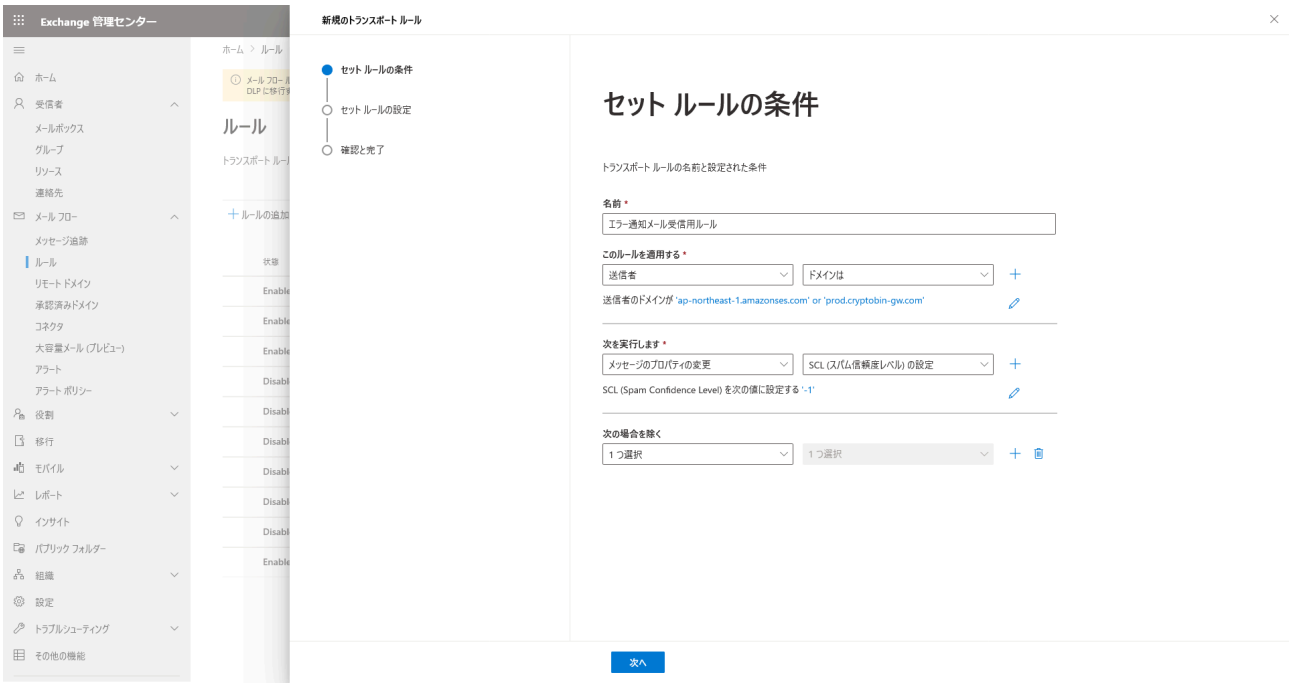


4.4.1.3. トランスポートルールの作成（エラー通知メール受信用ルール）

メール連携GWから送信されるエラー通知が迷惑メール判定されることを防ぐためのトランスポートルールを設定・有効化します。

1. 下図のようにExchange管理センターのサイドバーから、メールフロー > ルールに遷移し、ルールの追加 > 新しいルールの作成を選択します。

2. 「セットルールの条件」画面で、下図のように各項目を入力し、「次へ」ボタンを押します。トランスポートルールの名前は、任意の名前を入力してください。
このとき、「このルールを適用する」の設定は「送信者」、「ドメインは」を選択し、「ap-northeast-1.amazonses.com」と「prod.cryptobin-gw.com」を入力・追加します。
「次を実行します」の設定は「メッセージプロパティの変更」、「SCL（スパム信頼度レベル）の設定」を選択し、「Bypass spam filtering」を選択（※）してください。
※「Bypass spam filtering」を選択すると、"-1"が設定されます。

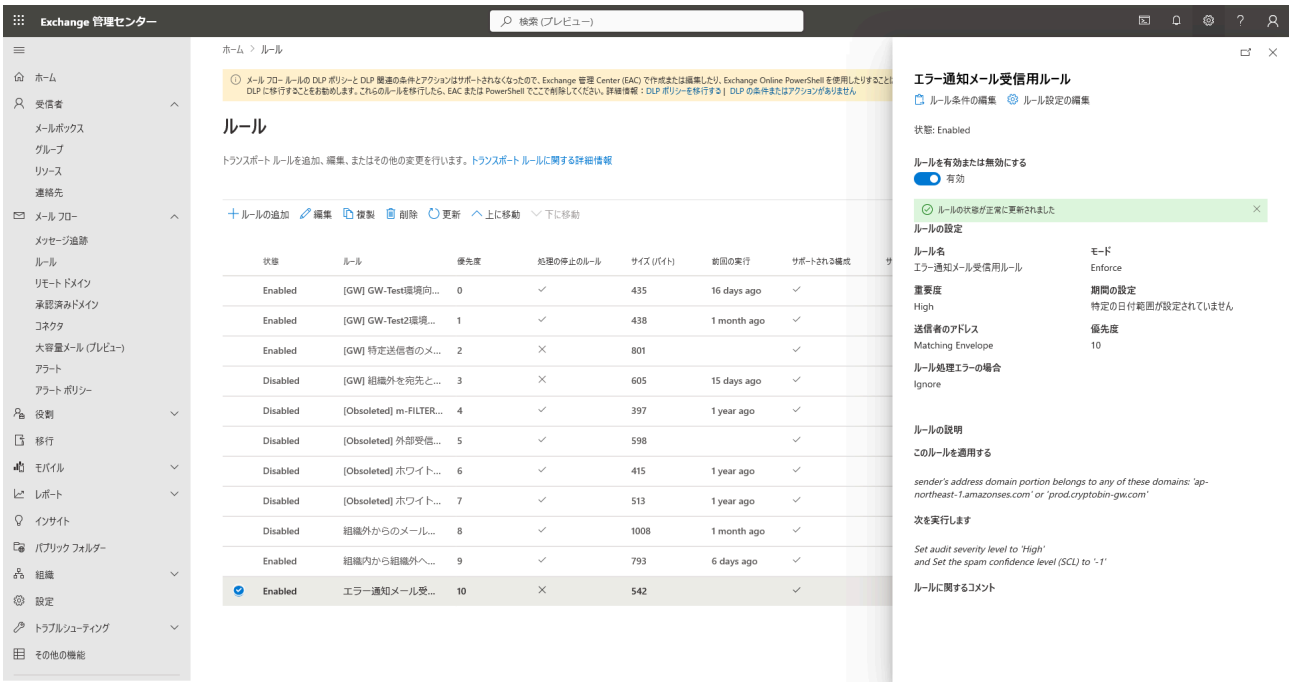


3. 「セットルールの設定」画面で、下図のように各種値を入力し、「次へ」ボタンを押します。
このとき、「ルールモード」は「適用」、「重要度」は「高」、「メッセージの送信者アドレスに一致

します」は「エンベロープ」を選択します。

4. 下図のように確認画面が表示されましたら「完了」ボタンを押すことで、ルールが作成されます。

5. 作成したルールを選択し、有効にします。下図のように状態がEnabledになっていればルールは有効になっています。



4.4.1.4. 宛先数の制限

本手順を実施した場合、全ユーザのメールボックスに設定が適用されますのでご注意ください。

送信メール1通あたりの宛先数の制限を行います。 本設定は必須ではございませんが、To・Cc・Bccの宛先数の合計が50件を超えるメールが送信された場合、本オプションによるクリプト便への連携処理が失敗する（※）ため、本設定の実施を推奨します。 なお、この設定はExchange Onlineの全ユーザに適用されますので、お客様のご判断にて実施をお願いします。 ※処理が失敗した場合は、送信者にエラー通知メールが送信されます。

1. Exchange Online PowerShell に接続 以下のコマンド実行後にダイアログが立ち上がるので、ID/パスワード等を入力し、Exchange Onlineにログインします。

```
Connect-ExchangeOnline -UserPrincipalName "管理者メールアドレス"
```

2. 宛先数の上限を50に設定
   以下のコマンドで全ユーザのRecipientLimitを50に設定します。

```
Get-Mailbox -ResultSize Unlimited | Set-Mailbox -RecipientLimits 50
```

4.4.1.5. リッチテキスト形式の利用制限

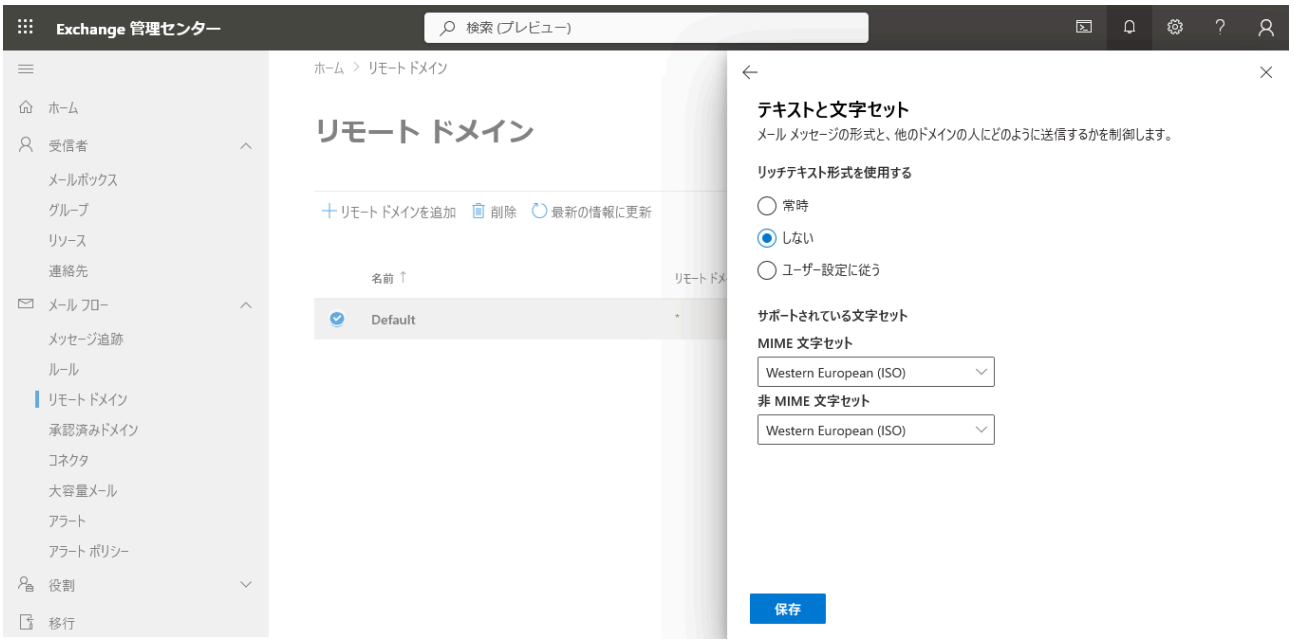
本手順を実施した場合、全ユーザに設定が適用されますのでご注意ください。

リッチテキスト形式の利用制限を行います。 本設定は必須ではございませんが、リッチテキスト形式でメールを送信した際、添付ファイルがwinmail.datに変換された状態でクリプト便への連携処理が行われる場合があるため、本設定の実施を推奨します。 なお、この設定はExchange Onlineの全ユーザに適用されますので、お客様のご判断にて実施をお願いします。

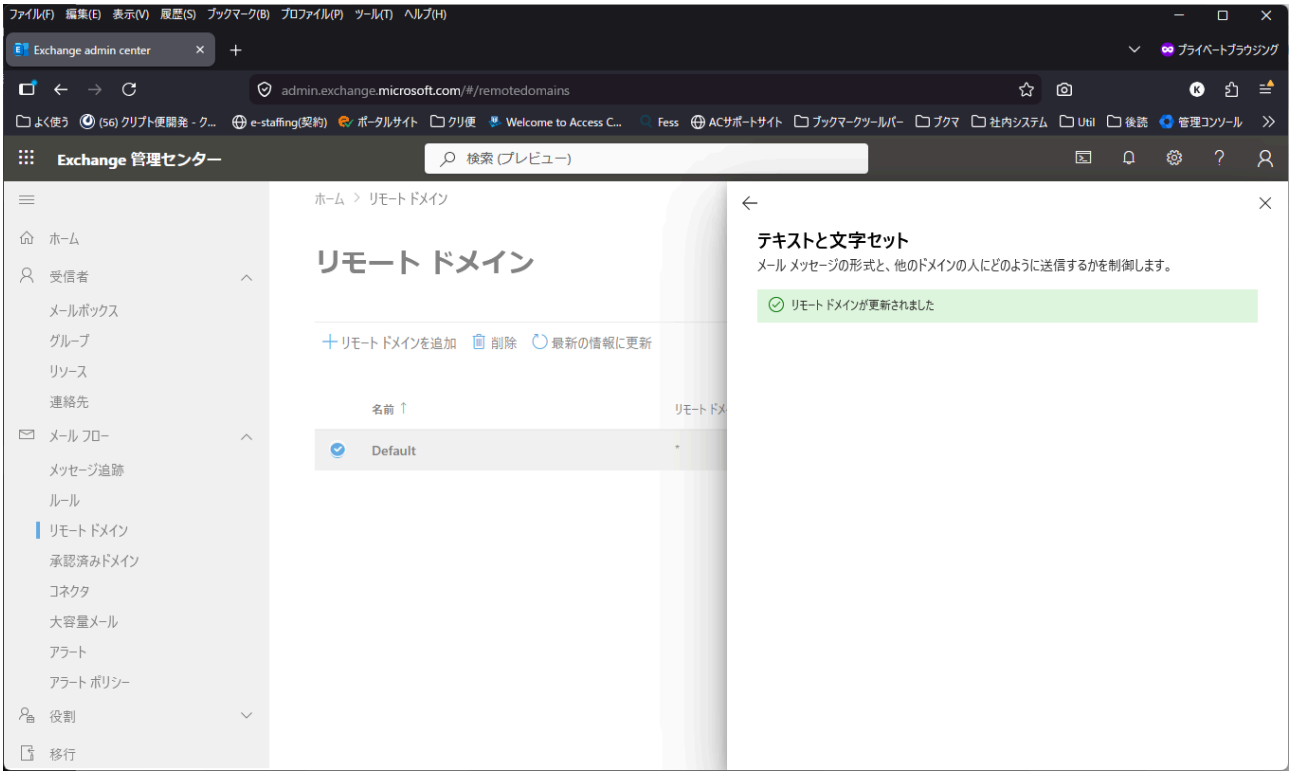
1. Exchange管理センターのサイドバーから、メールフロー > リモートドメインに遷移し、任意のドメインをクリックします。

2. 以下の画面より、テキストと文字セットを編集をクリックします。

3. リッチテキスト形式を使用するを「しない」に設定して「保存」します。



4. 下図のように確認画面が表示されましたら設定は完了です。



4.4.2. Google Workspaceを利用している場合の設定例

Google Workspaceをご利用の場合、以下の設定を実施することで本オプションの利用が可能となります。
なお、Google Workspaceの設定は数分で反映される場合がほとんどですが、最長で24時間ほどかかる場合があります。

- ホストの作成
  メール連携GWへ接続するため、ホストの設定を行います。

- 添付ファイルのコンプライアンスの設定（メール連携の動作確認用の設定）
  メール連携GWへ添付ファイル付きメールを連携するための設定を行います。
- 迷惑メールの除外設定
  メール連携GWから送信されるエラー通知が迷惑メール判定されることを防ぐための設定を行います。
- 宛先数の制限（任意）
  送信メール1通あたりの宛先数の制限を行います。

> 後述の手順はあくまで設定例となりますので、お客様のGoogle Workspaceのご利用状況により設定内容が異なる場合がございます。
> また、本オプションの動作に影響が出ない範囲で任意の設定を実施していただくことも可能です。

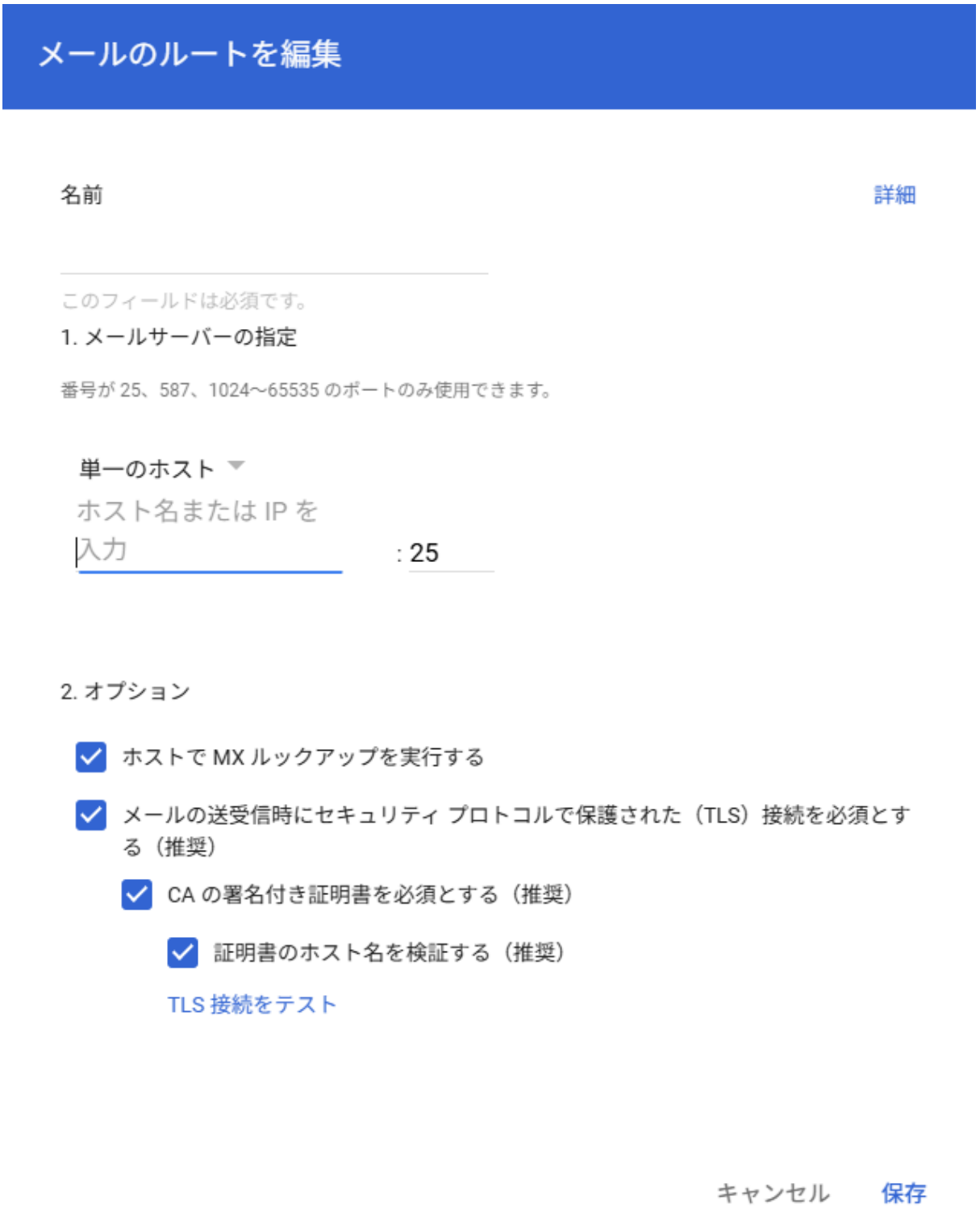
4.4.2.1. ホストの作成

メール連携GWへ接続するため、ホストの設定を行います。

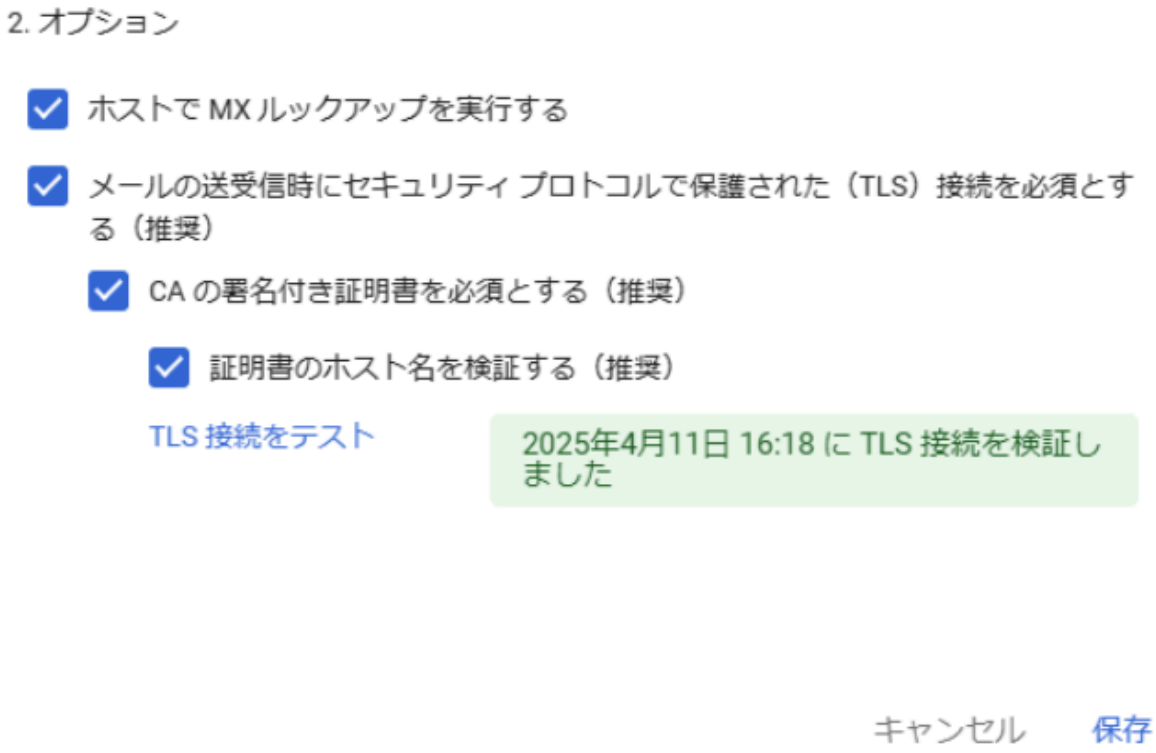
1. Google Workspace管理コンソールのメニューアイコンからアプリ > Google Workspace > Gmail > ホストにアクセスします。

2. 「ルートを追加」をクリックします。
3. 以下の内容を入力します。
   - 名前：任意の名前
   - メールサーバの指定：「単一のホスト」を選択
   - ホスト名：prod.cryptobin-gw.com
   - ポート番号：25

- オプション：すべて選択



4. 「TLS接続をテスト」をクリックし、下図のようにエラーが出力されないことを確認します。



5. 「保存」をクリックします。これによりルートが作成されます。

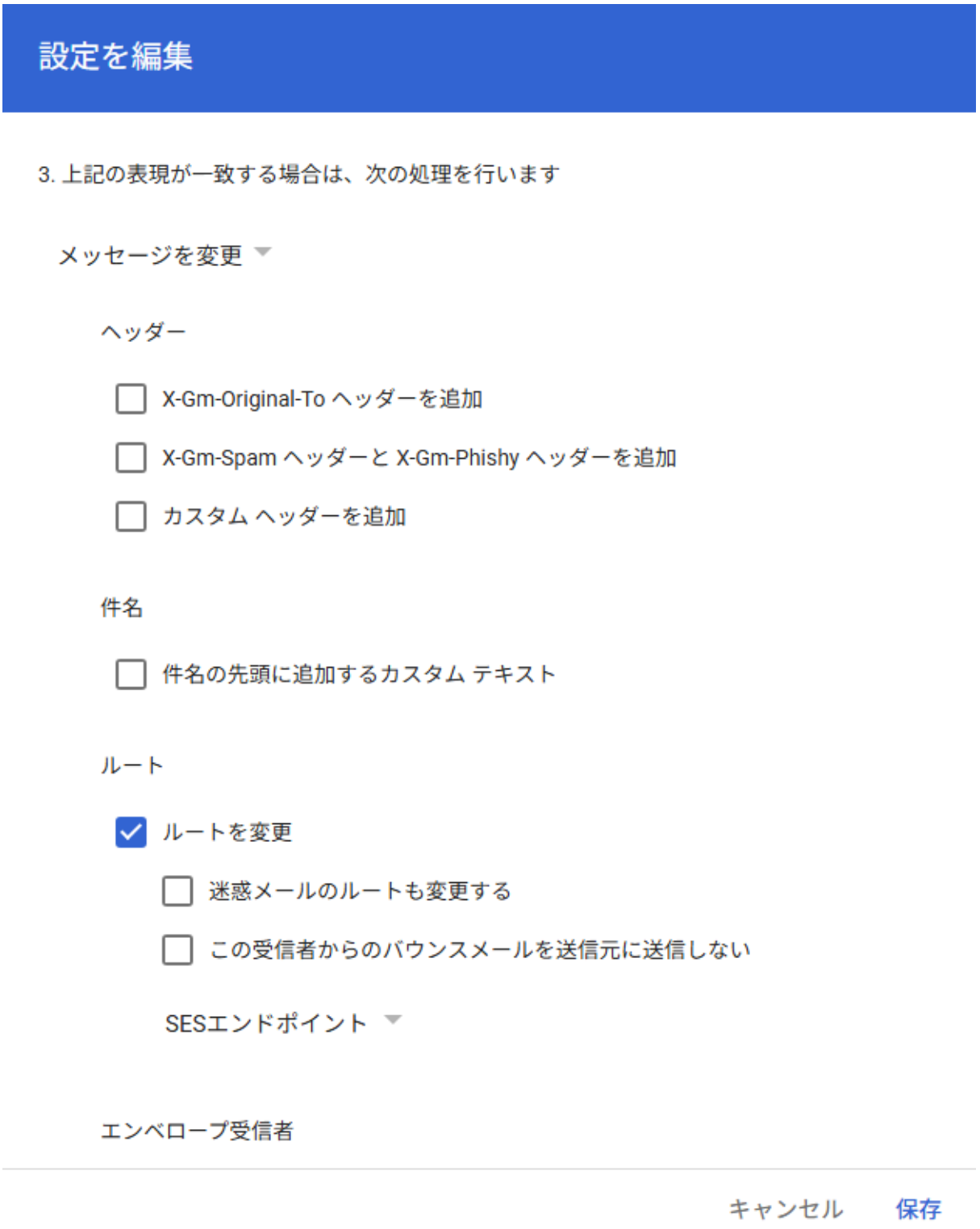
4.4.2.2. 添付ファイルのコンプライアンスの設定（メール連携の動作確認用の設定）

メール連携GWへ添付ファイル付きメールを連携するための設定を行います。

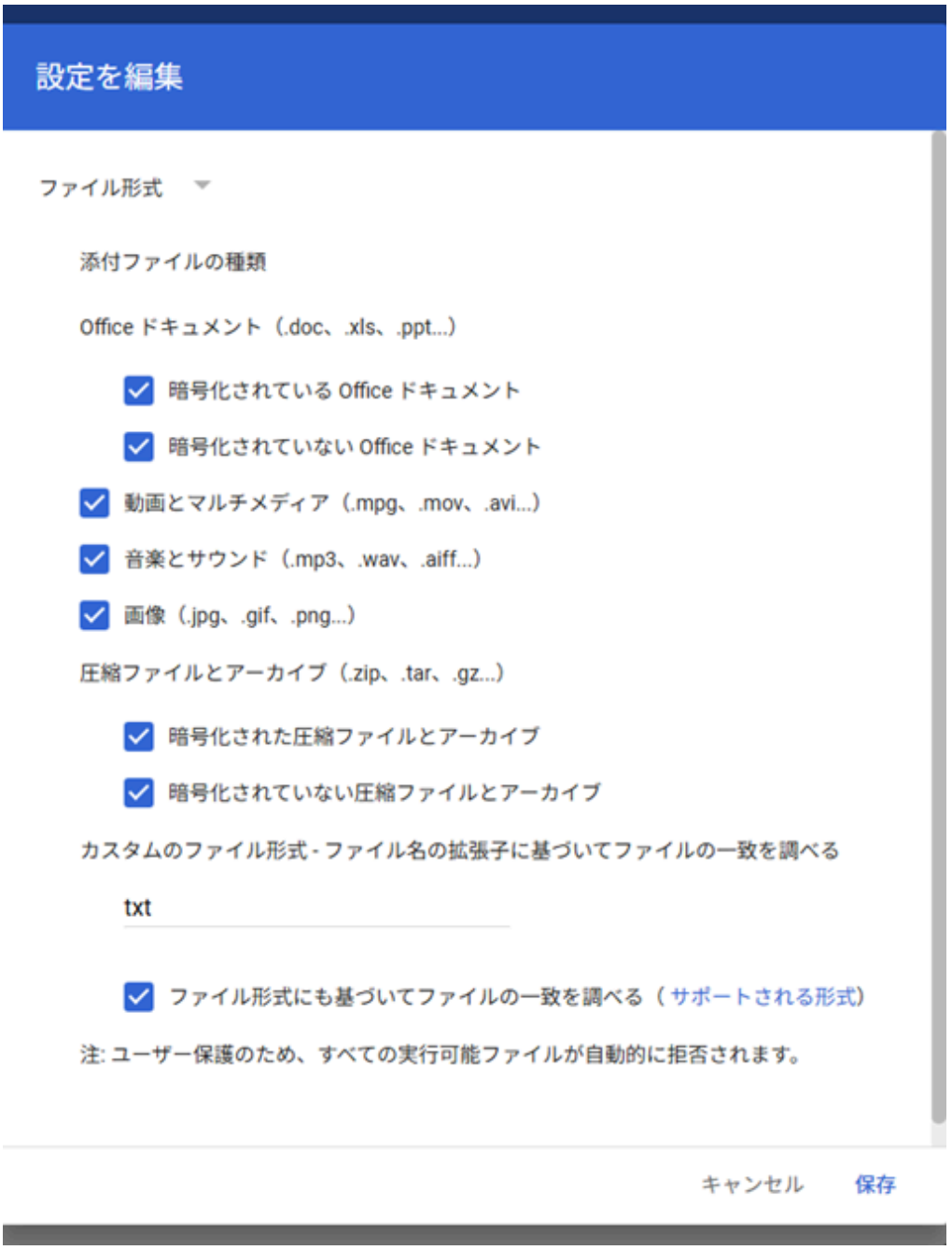
1. Google Workspace管理コンソールのメニューアイコンからアプリ > Google Workspace > Gmail > コンプライアンス にアクセスします。
2. 組織部門より、設定対象のドメインを選択します。
3. 「添付ファイルのコンプライアンス」セクションの「設定」（既に別のルールが存在していた場合は、「別のルールを追加」）をクリックします。
4. 以下の内容を入力します。
    - [添付ファイルのコンプライアンス]の説明を入力します
      例：クリプト便メール連携
    - 1.影響を受けるメール：[送信]を選択します
      ※内部宛て（送信者のアドレスと同一ドメイン宛）のメールもクリプト便で送る場合は、[内部 - 送信]も選択します
    - 2.各メッセージで検索するコンテンツを表す表現を追加する：[次の一部がメールに一致する場合]を選択します
    - [追加] をクリックし、 [設定を追加] ボックスが開きます

- [ファイル形式] を選択します
- [添付ファイルの種類] で、すべてのチェックボックスを選択します
- [保存] をクリックします

- 3.上記の表現が一致する場合は、次の処理を行います：[メッセージを変更]が選択されていることを確認します。
  - ルート：[ルートを変更]を選択し、「ホストの作成」で作成したホストを選択します。
- 【参考】添付ファイルのコンプライアンス設定例



- 【参考】ファイル形式の選択例

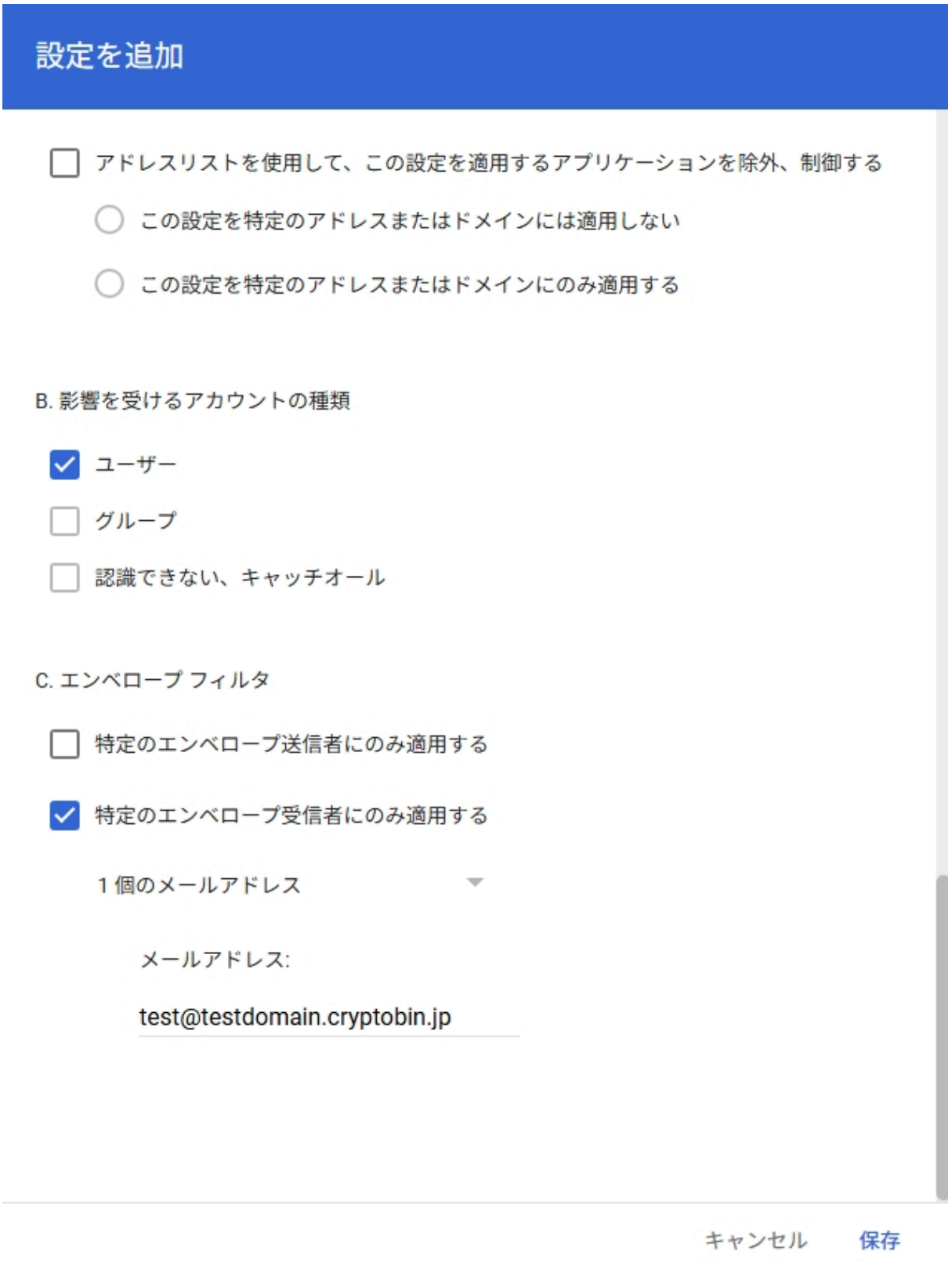


5. 「オプションを表示」をクリックします。

- C.エンベロープフィルタ：[特定のエンベロープ受信者にのみ適用する]にチェックを入れ、[1個のメールアドレス]を選択します。

- メールアドレス：任意のメールアドレス（※）を入力します。
※動作確認に利用する宛先メールアドレスを入力します。送信者のアドレスと同一ドメインを設定する場合は、前述の「1.影響を受けるメール」を[内部 - 送信]に設定しておく必要があります。
　なお、本設定はあくまで一例ですので、お客様のご判断で任意の条件に変更いただくことも可

能です。



6. ここまでの設定内容を確認し、[保存] をクリックします。

7. [ステータス]が[有効]になっていることを確認します。

本設定の条件に合致した添付ファイル付きメールのみ、メール連携GWに連携されます。
前述の設定例の場合、Office ドキュメント、動画とマルチメディア、音楽とサウンド、画像、圧縮ファイルとアーカイブ、カスタムのファイル形式で指定した拡張子のファイルが添付されたメールは、クリプト便に連携されますが、これらの条件に合致しなかった場合はメール連携GWに連携されず、そのまま送信されます。

4.4.2.3. 迷惑メールの除外設定

メール連携GWから送信されるエラー通知が迷惑メール判定されることを防ぐための設定を行います。

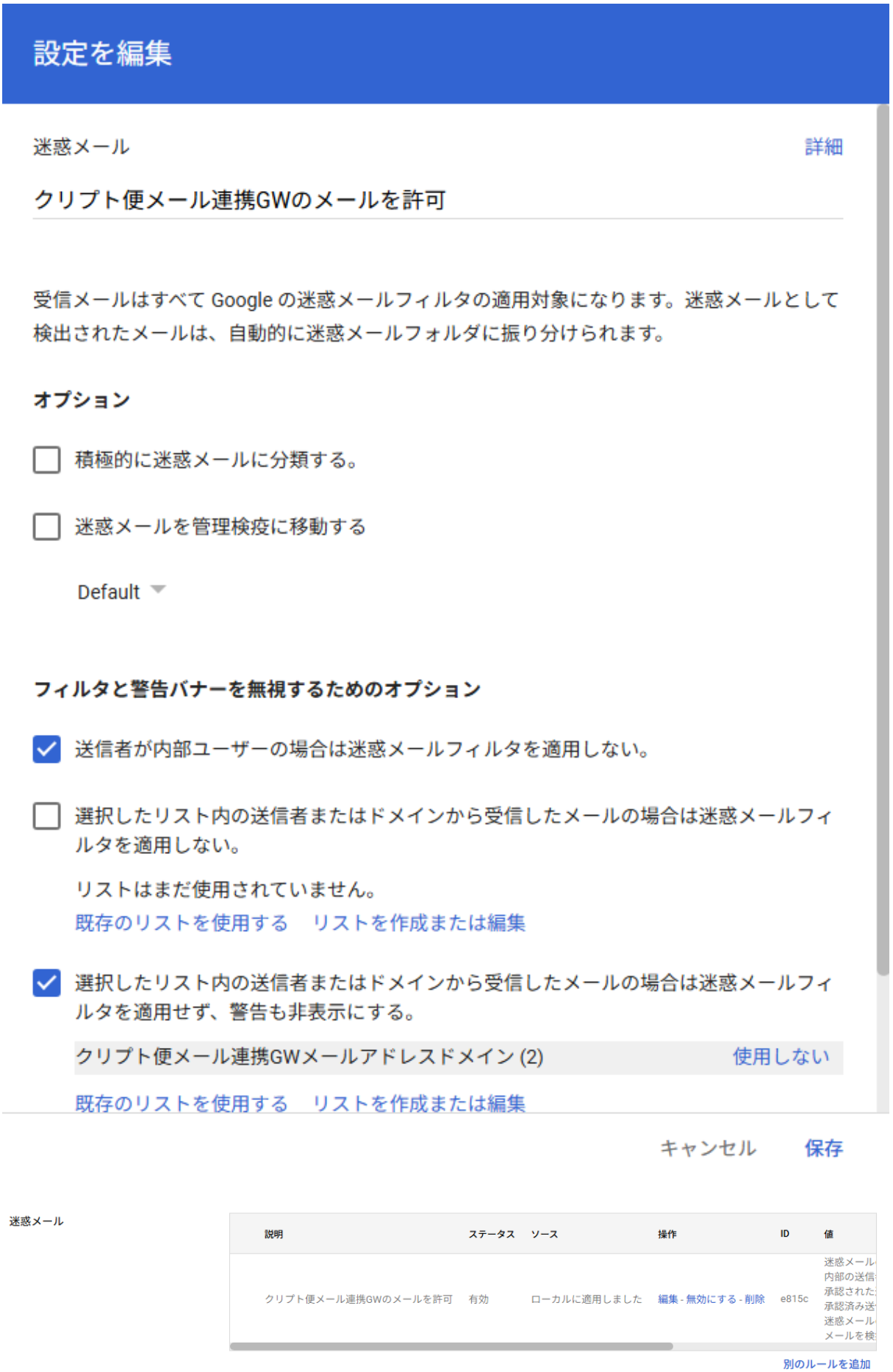
1. Google Workspace管理コンソールのメニューアイコンからアプリ > Google Workspace > Gmail > ルーティング > アドレスリストの管理 にアクセスします。
2. 「アドレスリストを追加」をクリックし、以下のドメインを登録します。
    - ap-northeast-1.amazonses.com

- prod.cryptobin-gw.com

3. Google Workspace管理コンソールのメニューアイコンからアプリ > Google Workspace > Gmail > 迷惑メール、フィッシング、マルウェア にアクセスします。

4. 「迷惑メールのルールを追加」（既に別のルールが存在していた場合は、「別のルールを追加」）をクリックし、以下の設定をチェックし保存します。

    - 送信者が内部ユーザの場合は迷惑メールフィルタを適用しない。
    - 選択したリスト内の送信者またはドメインから受信したメールの場合は迷惑メールフィルタを適用せず、警告も非表示にする（リストは項番2で作成したものを使用）。

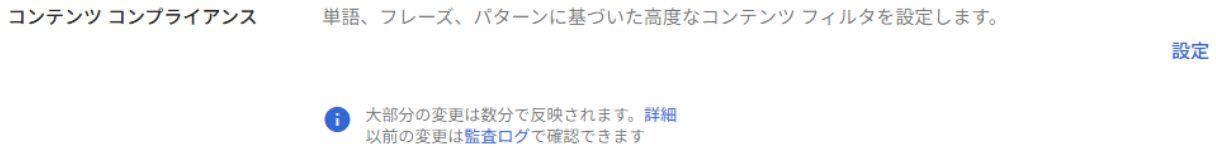


4.4.2.4. 宛先数の制限

本手順を実施した場合、全ユーザのメールボックスに設定が適用されますのでご注意ください。

送信メール1通あたりの宛先数の制限を行います。 本設定は必須ではございませんが、To、Cc、Bccの宛先数の合計が50件を超えるメールが送信された場合、本オプションによるクリプト便への連携処理が失敗する（※）ため、本設定の実施を推奨します。 なお、この設定はGoogle Workspaceの全ユーザに適用されますので、お客様のご判断にて実施をお願いします。 ※処理が失敗した場合は、送信者にエラー通知メールが送信されます。

1. Google Workspace管理コンソールのメニューアイコンからアプリ > Google Workspace > Gmail > コンプライアンス にアクセスします。
2. 組織部門より、設定対象のドメインを選択します。
3. 「コンテンツ コンプライアンス」セクションの「設定」（既に別のルールが存在していた場合は、「別のルールを追加」）をクリックします。



4. 以下の内容を入力します。
    - [コンテンツ コンプライアンス]の説明を入力します
      例：宛先数制限
    - 1.影響を受けるメール：[送信]を選択します
      ※内部宛て（送信者のアドレスと同一ドメイン宛）のメールもクリプト便で送る場合は、[内部 - 送信]も選択します
    - 2.各メッセージで検索するコンテンツを表す表現を追加する：[次のすべてがメールに一致する場合] を選択します
    - [追加] をクリックし、 [設定を追加] ボックスが開きます
        - [設定を追加] ボックスの上部にある [高度なコンテンツ マッチ] を選択します
        - [場所] で [受信者のヘッダー] を選択します
        - [一致タイプ] で、[正規表現に一致する] を選択します
        - [正規表現] に「@」を入力します
        - [最小一致数] に「51」を入力します
        - [保存] をクリックします
    - 3.上記の表現が一致する場合は、次の処理を行います：[メールを拒否] を選択します

- [拒否通知をカスタマイズ]は、任意で入力してください
  例：宛先は50件以下で入力してください。

5. [保存] をクリックし、以下の通り設定が反映されていることを確認します。

4.4.3. その他のメールサーバを利用している場合

Exchange Online、Google Workspace以外のメールサーバをご利用の場合でも、以下の設定を実施することで本オプションの利用が可能な場合がございます。

- メール連携GWへのメール転送設定
  以下のメール連携GWへ添付ファイル付きメールを連携するための設定をお願いします。
  - ホスト名：prod.cryptobin-gw.com
  - ポート番号：25
- エラー通知メールの受信許可設定
  以下のドメインから送信されるエラー通知が迷惑メール判定されることを防ぐための設定をお願いします。
  - ap-northeast-1.amazonses.com
  - prod.cryptobin-gw.com
- 宛先数の制限（任意）
  宛先数の合計が50件を超えるメールが送信された場合、本オプションによるクリプト便への連携処理が失敗するため、送信メール1通あたりの宛先数の制限を行います。

> 設定内容・手順はご利用のメールサーバによって異なるため、ご紹介することができません。
> また、サービスや製品の種類によっては本オプションを利用できない場合もございます。

4.5. 動作確認

実際に添付ファイル付きメールを送信し、正常に動作するか確認を行います。

1. 普段ご利用のメールクライアントを利用し、任意の宛先メールアドレス（※）に添付ファイル付きメールを送信します。
   ※ここまでに設定した動作確認用の宛先メールアドレスを利用します。

2. クリプト便から「送信完了通知」が届いていることをご確認ください。なお、通知メールの到着まで数分程度かかる場合がございます。
   <送信完了通知のサンプル>

   件名

   【クリプト便】メッセージ送信が完了しました

   本文

   送信ユーザ (yyyyy00000) 様

   クリプト便をご利用いただき、誠にありがとうございます。

   メッセージの送信が完了しました。

   件名　　：会議の資料を送付いたします
   お預かり日時　：2015/08/21 17:28:30

   --- ファイル ----------
   議事録.txt
   2015年度予算.ppt

   --- 宛先 ----------
   [To]
   example@cryptobin.jp

   [Cc]

   [Bcc]

   *** 注意 ***
   このメールは送信専用アドレスから送信しています。
   ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。

   本メールの内容に心当たりがない場合は、
   第三者があなたのIDを不正利用している可能性があります。
   ログインして、送信履歴をご確認ください。

3. 可能であれば、宛先にクリプト便の「お預かり通知メール」と、ファイル取得用パスワードを含む情報が挿入されたメール本文が届いていることをご確認ください。
   <お預かり通知メールのサンプル>

件名

【クリプト便】会議の資料を送付いたします

本文

[★★★]
ゲストユーザ 様

クリプト便をご利用いただき、誠にありがとうございます。

あなた宛にメッセージをお預かりしております。
下記URLよりご確認ください。

https://cryvia.cryptobin.jp/non.action?cd=xxx

送信者　　：送信ユーザ (yyyyy00000)
お預かり日時　：2015/08/21 17:28:30
有効期限　　：2015/09/10

お世話になっております。

会議の際の資料を送付いたします。
お手数お掛けいたしますが、
ご査収の程、よろしくお願い申し上げます。

何卒、よろしくお願い申し上げます。

--- ファイル ---
議事録.txt
2015年度予算.ppt

*** 注意 ***
このメールは送信専用アドレスから送信しています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。

[★★★]

<メール本文に挿入される情報のサンプル>

【ご案内】
こちらのメールは、添付ファイルがクリプト便によって送信されています。
添付ファイルを取得する際は、別途届きますクリプト便からの通知メールに記載のURLにアクセスいただき、
下記パスワードをご入力ください。

クリプト便ファイルパスワード
u/(#J7(_UFss=:a

送信者　　：alice@example.com
お預かり日時　：2015/08/21 17:28
件名　　：会議の資料を送付いたします

4.6. 本番利用開始のための設定

動作確認が完了したら、動作確認用の設定を解除し、本番利用開始のための設定を行います。

本項目の作業実施により、すべての添付ファイル付きメールの送信に影響が出るため、作業実施のタイミングにはご注意ください。

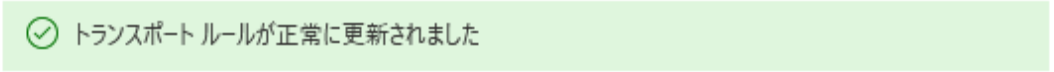
4.6.1. Exchange Onlineを利用している場合の設定例

Exchange Onlineをご利用の場合、以下の設定を実施します。

1. Exchange管理センターのサイドバーから、メールフロー > ルールに遷移し、先ほど作成したトランスポートルールを選択し、[編集]をクリックします。
2. 「セットルールの条件」画面が開いたら設定を下図の通り変更します。
    - このルールを適用する：「送信者」、「外部/内部である」、「Inside the organization」を選択します。

3. 「保存」ボタンを押します。

4. 以下のメッセージが表示されたら「完了」ボタンを押下し、設定作業を完了します。



4.6.2. Google Workspaceを利用している場合の設定例

Google Workspaceをご利用の場合、以下の設定を実施します。

1. Google Workspace管理コンソールのメニューアイコンからアプリ > Google Workspace > Gmail > コンプライアンス にアクセスします。

2. 組織部門より、設定対象のドメインを選択します。

3. 「添付ファイルのコンプライアンス」セクションから、先ほど設定した項目の「編集」をクリックします。

4. 以下の通り設定を変更します。

    - 1.影響を受けるメール：[内部 - 送信]の選択を解除します。
      ※内部宛て（送信者のアドレスと同一ドメイン宛）のメールもクリプト便で送る場合、[内部 - 送信]は選択したままにします。

5. 「オプションを表示」をクリックします。

    - C.エンベロープフィルタ：[特定のエンベロープ受信者にのみ適用する]のチェックを解除します。

6. ここまでの設定内容を確認し、[保存] をクリックします。

7. [ステータス]が[有効]になっていることを確認します。

4.7. 導入作業完了

以上で本オプションの利用に必要な作業はすべて完了です。
導入作業完了後の設定変更の方法等については後述の「ご利用ガイド」を、送信者・受信者における利用方法については別紙の「メール連携オプション ユーザマニュアル」をご確認ください。

5. ご利用ガイド

本章では、本オプションのご利用開始後に発生するさまざまな操作や設定変更、トラブル対応など、 必要に応じてご参考いただくための情報や設定手順をまとめております。

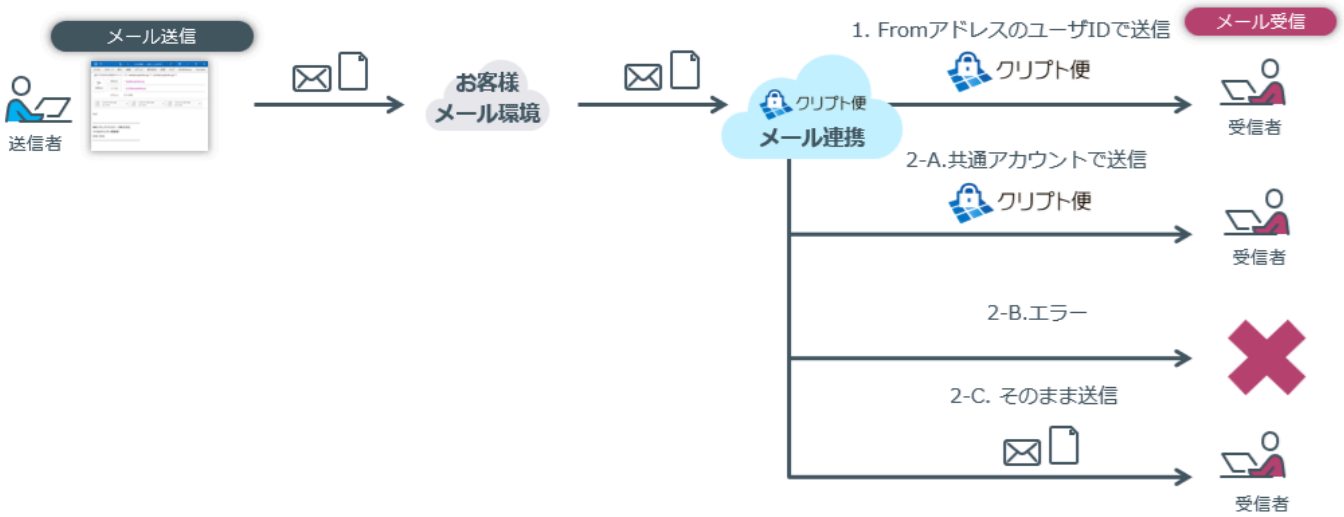
5.1. メール連携の仕組みについて

5.1.1. ユーザIDの登録有無によるメール連携処理の変化

クリプト便におけるユーザIDの登録状況によって、処理パターンを変更できます。
なお、ユーザIDの特定には送信者のFromメールアドレスを利用します。

1. 送信者のユーザIDが登録されており、かつメール連携用グループに所属している場合
   そのユーザIDが所属するメール連携用グループの送信として処理します。
2. 送信者のユーザIDが登録されていない、またはメール連携用グループに所属していない場合
   以下の3パターンのいずれかの処理※を行います。
   - A. メール連携用デフォルトユーザで送信する
   - B. エラーとし、送信しない
   - C. クリプト便連携せずに添付ファイル付きメールをそのまま受信者に送信する

   ※ヒアリングシートにて指定。すべてのメールに対して一律で適用されます。

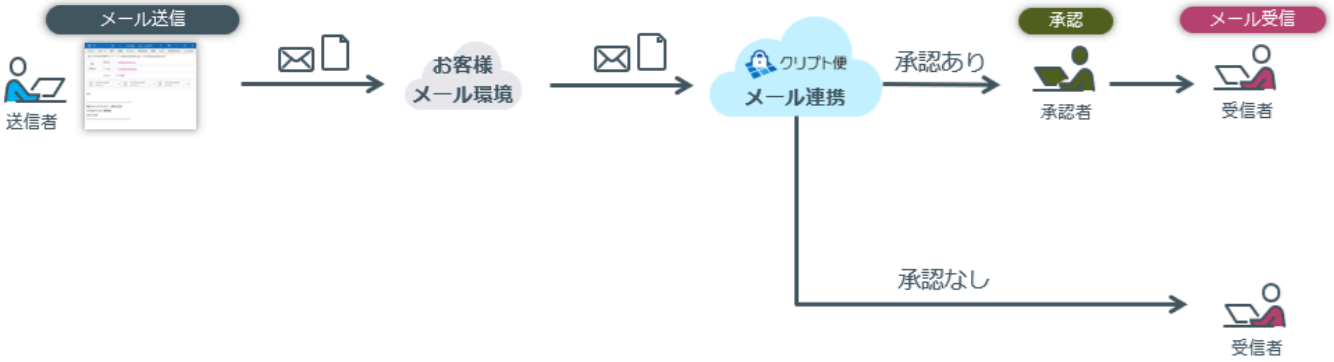


5.1.2. 承認機能

ユーザが所属するメール連携用グループの承認設定によって承認要否や承認者を決定します。

1. 承認ありの場合
   メール連携用グループに登録されている承認者が承認を完了次第、クリプト便メッセージが送信されます。
   なお、本文メールは承認を待たずに送信されます。

2. 承認なしの場合
   メール連携の処理が完了次第、クリプト便メッセージと本文メールが送信されます。



5.2. 特定の条件において添付ファイル付きメールを直接送信する方法

以下の設定を実施することで、メール連携GWを経由せずに（＝クリプト便を利用せずに）、添付ファイル付きメールを直接送信することが可能です。

例）送信メールの件名に $$$ などの文字列が入力されている場合、添付ファイル付きメールを直接送信する。

5.2.1. Exchange Onlineを利用している場合

Exchange管理センターのサイドバーから、メールフロー > ルールに遷移し、本オプションの利用のために設定したトランスポートルールを編集し「次の場合を除く」の設定を追加します。

5.2.2. Google Workspaceを利用している場合

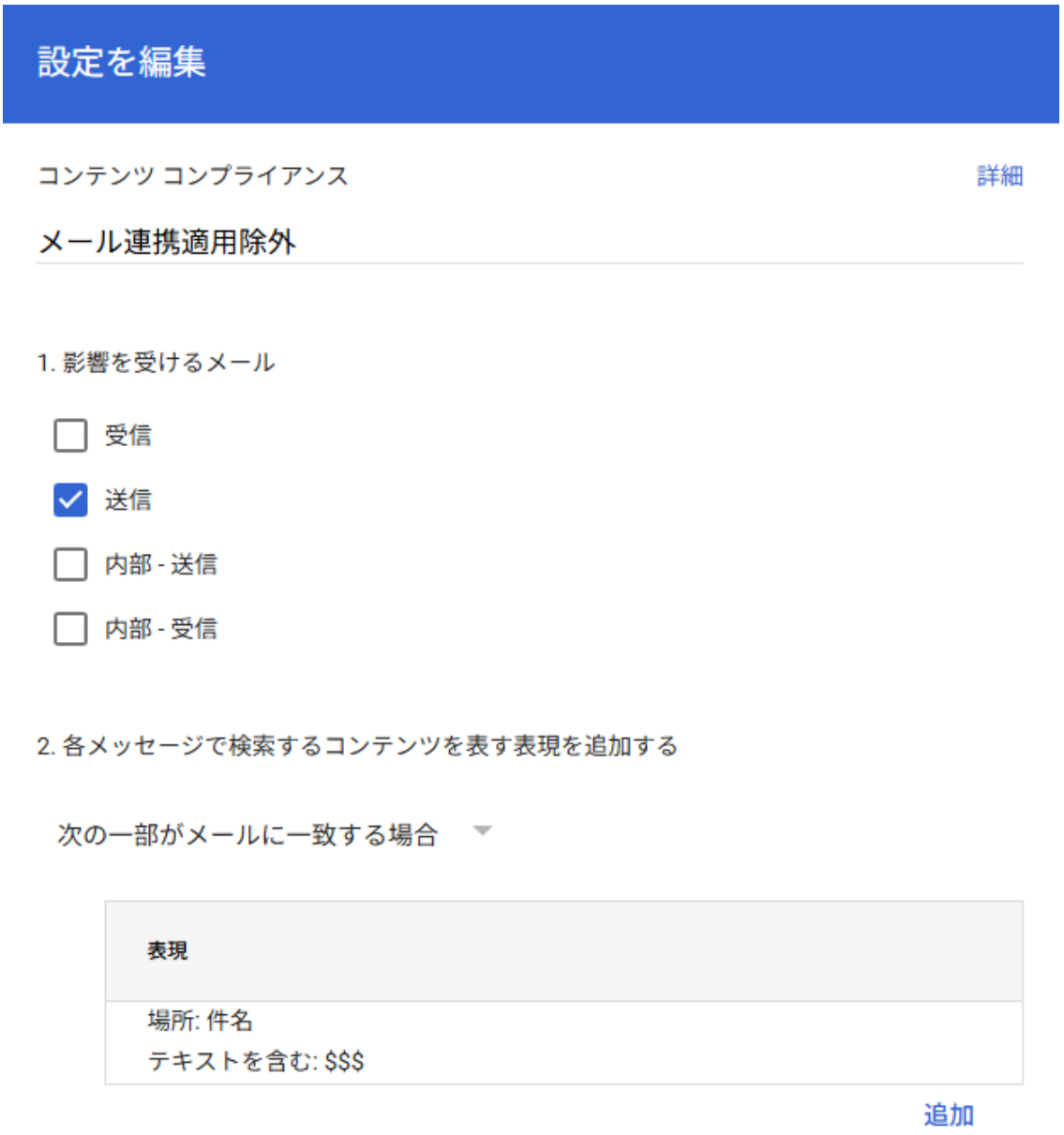
1. Google Workspace管理コンソールのメニューアイコンからアプリ > Google Workspace > Gmail > コンプライアンス にアクセスします。
2. 組織部門より、設定対象のドメインを選択します。

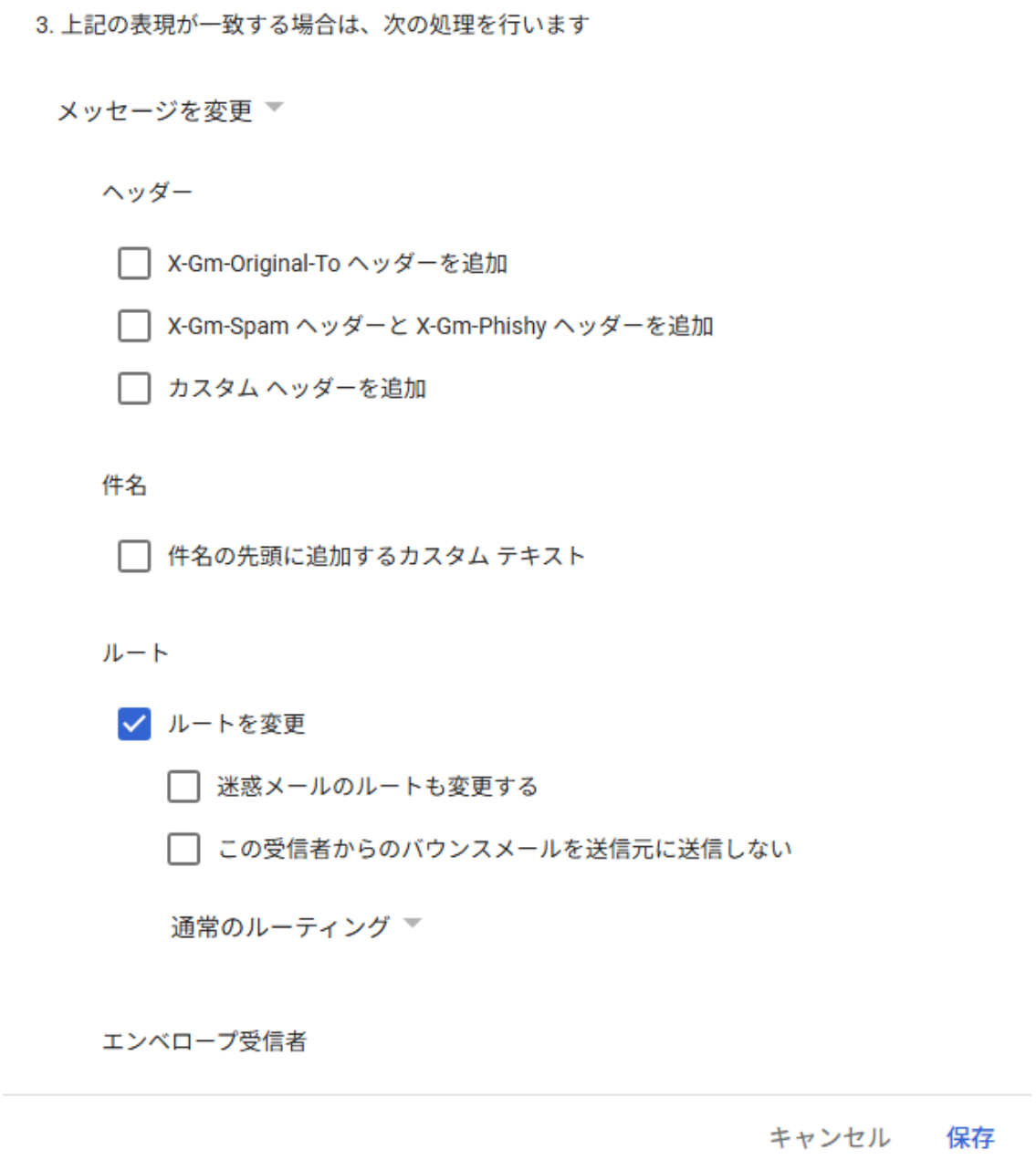
3. 「コンテンツ コンプライアンス」セクションの「別のルールを追加」をクリックします。

4. 以下の内容を入力します。

- [コンテンツ コンプライアンス]の説明を入力します
  例：メール連携適用除外
- 1. 影響を受けるメール：[送信]を選択します
  - ※ 内部宛て（送信者のアドレスと同一ドメイン宛）のメールもクリプト便で送る場合は、[内部 - 送信] も選択します
- 1. 各メッセージで検索するコンテンツを表す表現を追加する：[次の一部がメールに一致する場合] を選択します
- 1. [追加] をクリックし、 [設定を追加] ボックスが開きます
  - [設定を追加] ボックスの上部にある [高度なコンテンツ マッチ] を選択します
  - [場所] で [件名] を選択します
  - [一致タイプ] で、[テキストを含む] を選択します
  - [コンテンツ] に「$$$」を入力します
  - [保存] をクリックします
- 1. 上記の表現が一致する場合は、次の処理を行います：[メッセージを変更] が選択されていることを確認します。

- ルート：[ルートを変更]、[通常のルーティング] を選択します。





5. [保存] をクリックし、以下の通り設定が反映されていることを確認します。

5.3. クリプト便やメール連携GWでメンテナンスや障害が発生している場合の対応について

クリプト便やメール連携GWでメンテナンスや障害が発生し、本オプションを利用できない状態となっている場合、以下の作業を実施することで本オプションの利用を一時的に停止することが可能です。
なお、本対応の実施は任意となっておりますので、お客様のご判断にて実施をお願いします。

5.3.1. Exchange Onlineを利用している場合

1. 管理者アカウントで Exchange 管理センター にサインインします。
2. 左側メニューメールフロー→ルールをクリックします。
3. 一覧より、メール連携GWへ添付ファイル付きメールを連携するための設定（ルール）を選びます。
4. メニュー上部またはルール行の「その他の操作」ボタン（…や「アクション」）から「無効にする（Disable）」を選択します。 ※障害が復旧し、再度ルールを有効化したい場合は、同様の手順で「有効にする（Enable）」を選択すれば元に戻ります。

5.3.2. Google Workspaceを利用している場合

1. 管理コンソールにログイン
2. アプリ→Google Workspace→Gmail→コンプライアンスにアクセスします。
3. 組織部門より、設定対象のドメインを選択します。
4. 「添付ファイルのコンプライアンス」より、メール連携GWへ添付ファイル付きメールを連携するための設定（ルール）を探します。
5. 当該設定の行に表示されている「無効にする」をクリックします。
6. 「ルールの操作の確認」が表示されますので、「続行」をクリックします。
7. 当該設定の行のステータスが[無効]になっていることを確認します。 ※障害が復旧し、再度ルーティングを有効化したい場合は、同様の手順でステータスを「有効」にすれば元に戻ります。

5.4. 送信の取消について

以下の方法で送信取消を行うことが可能です。

5.4.1. 送信BOXから行う方法

送信を行ったユーザのアカウントでクリプト便の一般ユーザ画面にログインし、送信取消を行うことが可能です。
送信済みメッセージを取り消す

5.4.2. セクション管理者機能を利用する方法

セクション管理者画面にログインし、送信取消を行うことが可能です。
送信されたメッセージを取り消す

5.5. メール連携オプションの解約について

本オプションの解約を希望される場合は、クリプト便ヘルプデスクへご連絡ください。
また、お客様にて以下の手順による作業が必要となりますので、任意のタイミングで実施をお願いします。

> 「クラウドサービス・ソフトウェアの設定削除」を実施した時点で、本オプションは機能しない状態となります。 作業の際は、十分注意して実施をお願いします。

1. クラウドサービス・ソフトウェアの設定削除

    - Exchange Onlineを利用している場合

        1. コネクタの削除
           本オプションのために作成したコネクタを削除します。

        2. ルールの削除
           本オプションのために作成したルールを削除します。

        3. 宛先数の制限の解除
           送信メール1通あたりの宛先数の制限を解除します。 ※本手順の実施には、ExchangeOnlineManagementのインストール・インポートが必要です。

        4. Exchange Online PowerShell に接続
           以下のコマンド実行後にダイアログが立ち上がるので、ID/パスワード等を入力し、Exchange Onlineにログインします。

           ```
           Connect-ExchangeOnline -UserPrincipalName "管理者メールアドレス"
           ```

        5. 宛先数の上限を500に設定
           以下のコマンドで全ユーザのRecipientLimitを500（デフォルト値）に設定します。
           ※全ユーザのメールボックスに設定が適用されますのでご注意ください。

           ```
           Get-Mailbox -ResultSize Unlimited | Set-Mailbox -RecipientLimits
           500
           ```

    - Google Workspaceを利用している場合

        1. ホストの削除
           本オプションのために作成したホストを削除します。

        2. ルーティングの削除
           本オプションのために作成したルーティングを削除します。

3. 添付ファイルのコンプライアンスの設定の削除
   本オプションのために作成した添付ファイルのコンプライアンスを削除します。

4. 宛先数の制限の削除
   本オプションのために作成したコンテンツコンプライアンスを削除します。

2. メール連携用グループ・ユーザの削除
   メール連携用グループ・ユーザを削除します。

3. DNSレコードの削除
   本オプションのために登録した、送信ドメイン認証（SPF、DKIM）に関するDNSレコードを削除します。

<削除対象レコードの例>

設定箇所	削除対象の設定例
MXレコード	<お客様指定のドメイン>. IN MX 10 feedback-smtp.ap-northeast-1.amazonses.com.
TXTレコード	<お客様指定のドメイン>. IN TXT "v=spf1 include:amazonses.com ~all"
DKIMレコード①	xxxxx._domainkey.<お客様指定のドメイン>. IN CNAME aaaaa.dkim.amazonses.com.
DKIMレコード②	yyyyy._domainkey.<お客様指定のドメイン>. IN CNAME aaaaa.dkim.amazonses.com.
DKIMレコード③	zzzzz._domainkey.<お客様指定のドメイン>. IN CNAME aaaaa.dkim.amazonses.com.